



DM173
15
00735271

昭 9
A
54

昭和9年2月 日

農林省
展寄贈

米穀統制法施行令說明

昭和八年十一月

農林省米穀部

(代贈案)

昭9
A
54

DM173
15

昭 9
A
54



735271

凡 例

本編ハ昭和八年十月二十一日米穀事務所長會議ニ
於ケル米穀統制法施行令ニ關スル荷見米穀部長ノ
講演速記ニシテ米穀關係者ノ參考ニ供セン爲印刷
ニ附シタルモノナリ

昭和八年十一月九日

農 林 省 米 穀 部

農林省米穀法

昭和八年十一月廿五日

二、米穀統制法施行令

米穀統制法施行令第一號

米穀統制法施行令第二號

米穀統制法施行令第三號

目次

米穀統制法施行令說明……………一

參照

一、米穀統制法……………四三

二、米穀統制法施行令……………四六

三、米穀統制法施行規則……………五三

四、米穀統制法第二條ノ規定ニ依ル昭和八年産内地米ノ公定價格……………七七

五、米穀統制法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ農林大臣ノ指定シタル銘柄及

等級……………八六

米穀統制法施行令説明

米穀統制法が十一月一日カラ施行サレルコトニナリマシテ、其法律ノ運用ニ付キマシテハ十分各事務所長ノ諸君ノ御盡力ヲ願ハナケレバナラヌト思ヒマスガ、ソレニ付テ米穀統制法施行令及規則ノ説明ト云フヤウナモノヲ一言申上ゲテ見タイト考ヘルノデアリマス。此法規ハ法律的ニハ何モ難シイ法規デハナイノデアリマシテ、極メテ簡單デアリマスガ、其精神ヲ充分御諒解ヲ願度ト存ジマスカラ其趣旨ダケヲ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス。

米穀統制
ノ意義

ソレデ此米穀統制法ト言フノハドウ云フコトカト云フコトハ、全體ノ法規ヲ御説明シナイ中ハ判然シナイノデアリマスガ、第一條ニ「政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節シ米穀ノ統制ヲ圖ル爲本法ニ依リ米穀ノ買入及賣渡ヲ行フ」トアリマスガ、此「米穀ノ統制ヲ圖ル爲」ト云フノガ新ニ加ハツタ内容ニナルノデアリマシテ、從來ノ米穀法デハ、政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入云々ヲ爲スコトヲ得ト書イテアリマシタノヲ、今度ノ米穀統制法ニハ、「政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節シ米穀ノ統制ヲ圖ル爲本法ニ依リ米穀ノ買入及賣渡ヲ行フ」、トシタノデアリマス。是ハ米穀統制法ト云フモノノ意義ノ範圍ヲ明確ニスル爲ニ出來タ條文ニナルノデアリマス、即チ米穀統制ノ統制ト云フノハ數量又ハ市價ノ調節ト云フコトニアルノヲ明ニシタノデアルソレデ米穀統制法ト云フ文字ガ我々ノ間ニ使ハレルコトニナリマシタノハ、最初ハ昨年ノ六月ニ米穀部ガ出來マシタ時ニ、米穀法ノ施行及米穀統制計畫ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲農

林省ニ米穀部ヲ置クト云フ勅令ニ米穀統制計畫ト云フ文字が出タノガ法令ト致シマシテハ最初ノコトニナルノデアリマス、其法令が出マス前ニ豫算ノ關係トシテハ米穀統制計畫ヲ實施スル爲職員ヲ置クト云フノデ、豫算ノ方ニハ米穀統制ト云フ文字ハ出テ居リマシテ、其後勅令ニ米穀統制ト云フコトガ法文ニ現ハレタ譯ニナリマス、ソレニ引續キマシテ米穀統制調査會ト云フモノガ設ケラレテ、之ガ昨年ノ十一月九日ニ出來タノデアリマスガ、其時ニ米穀統制調査會ハ米穀統制ニ關スル事項ヲ調査審議スル、ト規定セラレ重ネテ米穀統制ト云フ文字が出タ譯ニナリマス、其内容ハドウ云フコトデアツタカト申シマス、是ハ米穀統制調査會ノ事情ヲ申上ゲマスト自ラ其内容ガ御理解出來ルト思フノデアリマス、米穀統制調査會ヲ設ケマシテ、其處デ審議シタコトハドウ云フコトデアツタカト申シマス、第一ニ出マシメコトガ米穀專賣案デアリマス、第二ニ出マシタノガ米穀管理案、第三ニ出マシタノガ米價公定案ソレ等ノ事項ヲ參酌シテ作りマシタノガ米穀統制々度要綱、斯ウ云フ風ナモノヲ順次ニ審議シテ參ツタノデアリマスガ、即チ米穀統制ニ關スル重要事項ナルモノノ中ニハ最モ有力ナルモノトシテハ米穀專賣ノ問題ガアリ、又米穀管理、米價公定ト云フヤウナ、總テ此米ノ値ナリ數量ナリヲ國家ノ力デ以テ調節シテ參ル、或ハ支配シテ行カウト云フコト、詰リ自由經濟ニ放任シナイデ、國家ノ力ヲ以テ之ニ干涉シテ行カウト云フ廣イ意味合ノコトガ米穀統制ナル文字ノ中ニ含マレルト云フコトハ、此ノ統制調査會ノ審議ノ結果ヲ見テモ御分リニナルト考ヘルノデアリマス。

餘談デアリマスガソレデ米穀統制ニ關スル重要事項トシテ審議サレタ專賣案ト云フヤウナモノハ

ドウデアツタカト申シマス、之モ出來得レバ米穀統制ニ關スル事項トシテ實行シタイト云フ意味合デ、調査會デハ色々審議シタノデアリマスガ、其經過ヲ一言申上ゲテ置クコトモ御參考ニナルカト思ヒマス、米穀統制調査會デハ專賣案ニ關シテ審議シマシタ結果、從來世間ニ唱ヘラレテ居ル種々ノ米穀專賣案ノ内容ニ付テ深ク攻究スルト共ニ、自家用米ノ範圍、收納價格及賣却價格ノ決定方法、財政經濟及金融ニ及ボス影響、又内地ニ專賣制ヲ施行スル場合ニ於ケル朝鮮及臺灣トノ關係等ニ付テ種々審議ヲ行ツタノデアリマスガ、之ニ付テノ大體ノ意嚮トシテハ、徹底的ナ米穀統制策トシテハ專賣ヲ最善トスル、要スルニ專賣ノ目的ハ生産者消費者ノ經濟安定ニ在ルノデアツテ、收益ヲ目的トシナイカラ取締ノ法制ナドモ嚴格ナルヲ必要トシナイ、從テ實行上モ困難ガナイト云フ意見モアリ、又之ニ對シテ米穀ハ鹽、煙草トハ異ツテ數量甚ダ多ク、且ツ全國至ル所ニ生産セラレル等ノ關係上、專賣ヲ實行スルニハ多大ノ困難ヲ伴フ、又專賣ハ生産費ヲ償ハシムル點カラ見レバ適當デアルガ、販賣價格ヲ全國一律ニスレバ、都市ニ於テハ割安トナリ、農村ニ於テハ割高トナルト云フヤウナ點カラ專賣ガ賛成シ難イトカ、又ハ理想トシテハ賛成デアルガ、尙早デアルトカ云フヤウナコトデアリマシテ、要スルニ委員會ノ結論ハ專賣制度ニ付テハ經濟界又ハ金融界ニ重大ナル影響ヲ與ヘ、其影響モ十分攻究シナケレバナラヌシ、財政上ニ及ボス關係モ誠ニ大キナモノデアルカラ、尙ホ慎重ノ攻究ヲ必要トスルト云フヤウナコトデ、統制策トシテハ認メラレテ居ツタノデアリマスガ實行ニ移ルマデニハ熟シナカッタト云フヤウナ關係デアリマシテ、專賣ト云フヤウナコトモ米穀統制ト云フ中ニハ含マレルト云フコトハ、事實上沿革カラ認メラレルノデアリマス。

次ニ米穀管理、米價公定等ノコトニ付テ、米穀管理ニ付テハ管理地區ヲ設ケルコトノ利害、米穀ノ移動ト米穀管理地區トノ關係、米價公定問題ニ付テハ公定價格決定ノ基礎、賣買價格及其賣買價格ヲ如何ニ制限シテ行クカト云フコトノ可否ニ付テ攻究シタト云フヤウナコトニナツテ居リマシテ、是等ノコトガ總テ廣イ意味ノ米穀統制ト云フ文字ノ中ニ這入ルト云フコトガ分ルノデアリマシテ、此米穀統制法ト云フモノモ實際米穀統制法トダケ書イテアリマス、ドウ云フ範圍ノモノカ明確デアリマセヌノデ、規定ヲ設ケタコトニナリマス、一言申上ゲテ置キマス。

米穀統制
法ノ二大
目的

ソレカラ此米穀統制法ニ於キマシテハドウ云フコトガ眼目デアツタカト申シマス、大體第一ハ米價ノ公定制度、第二ニハ米穀ノ季節的出廻數量ノ調節、此二ツノコトヲ實行シヤウト云フノガ此法律ノ眼目ニナルノデアリマシテ、又從來ノ米穀法ノ建前ト異ツテ居ル點ニナルノデアリマス。

米價公定
制度ノ意
義

ソレデ米價ノ公定制度ト云フノハドウ云フコトデアルカト申シマス、大體米穀ノ價格ガ非常ニ暴騰シ暴落スルノガ適當デナイノデアリマスカラ、米穀法ヲ制定致シマシテ以來、政府ハ常ニ賣買行為ニ依ツテ米ノ市場ニ於ケル供給數量ヲ加減スル方法ニ依ツテ主ニ調節ヲ行ツテ來タノデアリマスガ、ソレデハ何等標準ガナクテ、ドレ位マデ米ガ下レバ買入ヲシ、ドレ位マデ米ガ上レバ賣渡ヲスルノカト云フコトガ明確デナカツタノデ、昭和六年ノ改正ノ時ニ現行ノ米穀法デハ基準價格ノ制度ヲ設ケマシテ、米價ガ政府ノ定メタ最低價格ヲ超エテ低落シタ場合ニハ調節ノ買入ガ出來ル、又最高價格ヲ超エテ騰貴シタ場合ニハ調節ノ賣却ガ出來ルト云フ建前ニ致シマシタガ、其賣買ヲ致シマスル時ノ要件トシテ、買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ定メナケレバナラヌト云フコトヲ同

ジ條項ニ規定致シマシタノデ、結局政府ガ最低價格ヲ調節スル爲ニ買入ヲスルト云フ時期ニハ既ニ最低價格以下ニ標準米價ト云フモノガ下ツタ時デナケレバイケナイノデアリマシテ、從テ買入價格ハ最低價格以下ノ價格ニナル、同様ニ政府ガ調節ノ爲メノ賣却ヲスル爲ニハ時價ガ最高價格ニナツタ場合デアリマスカラ、最高價格ト云フモノハ既ニ破レタコトニナルノデアリマス、是ガ從來ノ建前デアリマスガ、ソレデハ此調節ノカト云フモノガ十分ニ利キ難イト云フ憂ヒガアルノデアリマスカラ、其點ヲ改メテ毎年米穀ノ最低價格及最高價格ト云フモノヲ定メマシテ、サウシテ其價格ニ依ツテ政府ニ買ツテ吳レト云フ者ガアル場合ニハ買取リヲシ、賣ツテ吳レト云フ者ガアル場合ニハ賣却ヲシマシテ、實際最低價格、最高價格以下或ハ以上ニ米價ヲ出サセナイ、其範圍内ニ留メテ行クト云フコトヲ致サウト云フノガ、此米價公定制度ニナルノデアリマシテ、現行ノ米穀法ト違フ所デアリマス。

季節調節
ノ意義

ソレカラ季節調節ノ問題ハ、現行ノ米穀法デハ、是ハ昨年ノ米穀法改正ニ依リマシテ朝鮮米及臺灣米ノ内地移入數量ヲ月別平均的ナラシムル爲ニ買入又ハ賣渡ヲ行フト云フコトガ出來テ居ツタノデアリマスガ、是ハ要スルニ朝鮮米及臺灣米ニ限ツタノヲ、今度ハ内地ニ於テモ實行シヤウト云フコトニナリマシタノガ、前ノ米穀法ト此米穀統制法トノ季節調節ニ關シテ異ツタ點ニナルノデアリマシテ、詰リ政府ハ道府縣カラ該地域外ニ移出スル米穀ノ數量ヲ月別平均的ナラシムル爲ニ出廻期ニ於テ米穀ノ買入ヲ爲シ、出廻期後ニ於テ米穀ノ賣渡ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトガ、現行米穀法ノ朝鮮米又ハ臺灣米ノ季節調節ヲ爲シ得ルト云フ事項以外ニ加ハツタ譯ニナルノデアリマス、是

ハ朝鮮米、臺灣米ガ何故季節調節ノ必要ガアツタカト申シマス、此出廻期ニ於テ殊ニ朝鮮カラハ非常ニ一時ニ澤山ノ米ガ出テ來ル、サウシテソレガ内地ノ米價ニ非常ニ影響ヲ與ヘルカラ、ソレヲ防ガウト云フノガ現行ノ米穀法ノ規定デアリマスガ、米穀統制法デハ、米價ヲ出廻期ニ於テ弱クシテ、小農ガ米ヲ賣ル時分ニ不利ヲ與ヘルト云フコトハ朝鮮米ノ影響スル所大部分デアルノデアリマスガ、内地ニ於ケル主ナル産地カラノ出廻ト云フコトモ亦同様ニ影響ガ多イノデアリマスカラ、ソレヲモ適當ニ調節スル必要ガアルト云フノデ、此第四條ニ依ツテ季節的出廻調節ト云フモノヲ行フコトニナツタ次第デアリマス、大體此現行ノ米穀統制法ノ二ツノ建前ハ此米價公定制度主義ト季節的出廻數量調節ト云フコトヲ織込シテゴトニナルノデアリマスガ、其内容ヲ比較的詳シク是カラ申上ゲテ見ヤウト考ヘルノデアリマス。

米價公定制度ノ規定
米穀統制法ノ第二條
及第三條ノ規定

米穀統制法ノ第一條ノ規定

米價公定制度ニ關スル米穀統制法ノ規定ハ、米穀統制法ノ第二條ト第三條ノ規定デアリマシテ、季節的出廻調節ニ關スル規定ハ米穀統制法ノ第四條ノ規定ニナルノデアリマス、ソレデ米穀統制法ノ第二條ハ、政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年米穀ノ最低價格及最高價格ヲ公定シ之ヲ維持スルト云フコトニナツテ居リマシテ、前項ノ最低價格及最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀生産費、家計費及物價其他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定メルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、ソレデ此第二條ノ規定ニゴザイマスル政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年米穀ノ最低價格及最高價格ヲ公定スルト云フ、其勅令ノ内容ハドウ云フ風デアアルカト申シマス、ソレハ米穀統制法施行令ノ第一條ニ當ルノデアリマシテ、米穀統制法ノ施行令ノ第一條ハ、米穀統制法第二條ノ最低價格及最高價格ハ

毎年十二月ニ之ヲ定メルト云フコトガ一ツデアリマス、ソレカラ其公定價格ヲ定メルノハ東京及大阪ニ於ケル價格ニ付テ定メルノダト云フコトガ其第二ニナルノデアリマシテ、第三ニハ最低價格及最高價格ハ、其年産ノ内地米デ以テ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ノモノニ付テ之ヲ定メルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、此米穀統制法ノ第二條ノ最低價格、最高價格ヲ毎年十二月ニ定メルト云フコトハ何故デアアルカ、何故米穀年度ノ初メトナツテ居リマス十一月カラ定メナイノデアアルカト云フコトハ、是ハ申上ゲルマデモナイコトデアリマスガ、其最低價格ヲ決メマスル標準ヲ、米穀生産費並ニ物價其他ノ經濟事情ノ二ツノ要件ニ依ラウト云フコトニ致シテ居ルノデアリマシテ、其米穀生産費ノ調ハ全國ノ米ノ成熟ノ關係上、ドウ致シテモ十一月ニハ調ガ付カナイノデアリマシテ、價格ヲ公定スル其ノ年ノ米穀ノ生産費ヲ用ヒヤウト致シマスレバ、ドウシテモ十二月ニナラナケレバ其生産費ノ調査ト云フコトガ完成致シマセスカラ、從テ已ムヲ得ズ十二月ニ定メルト云フコトニナツテ居ル次第デアリマス、最高價格ノ關係ニ於キマシテハ、家計費ノ方ハ是ハ毎年九月一日カラ八月三十一日マデノ間ニ家計費ノ調査ト云フモノハ出來上ルノデアリマスカラ、是ハ時間ヲ急イデ貫ヘバ或ハ十一月ノ初メ頃マデニハ家計米價ト云フモノガ算出ガ出來ルノデアリマセウケレドモ、最低價格及最高價格ト云フモノハ、同ジ米ノ上値ト下値デアアルノデアリマスカラ、同時ニ定メナケレバナラヌ、サウ云フ關係デ最低價格ノ標準トナルベキ生産費ガ十二月ニナラナケレバ出來マセスカラ、ソレヲ眼中ニ置キマシテ、毎年十二月ニ價格ヲ公定スルト云フコトニ時期ヲ定メタ譯デアリマス。

ソレカラ此公定價格ヲ定メル場所ハ東京市及大阪市ニ限定シマシタ理由ハ如何デアアルカト申シマスト、是ハ日本ニ於ケル米ノ二大中心取引市場ト認ムベキモノハ、東京及大阪デアアルト云フコトハ何人モ異論ノナイ所デアリマシテ、政府ガ價格ヲ公定シテ其公定價格ニ依ツテ最高、最低ノ價格ノ範圍内ニ米價ヲシテアラシムルヤウニ努力シヤウ、其方法トシテハ最低價格ヲ買入ノ希望者ガアレバ其最低價格ニ依ツテ米ノ買入ヲスル、最高價格ニ依ツテ米ノ賣却ヲ希望スル者ガアリマスレバ最高價格ニ依ツテ米ノ賣却ヲスル、斯ウ云フ風ナ建前ヲ取リマス以上ハ、全國ノ各地ニサウ云フ公定價格ト云フモノヲ決定スルコトハ非常ニ煩雜デアリマシテ、實際實行スルコトハ殆ド不可能ニ等シイ困難デアリマスカラ、大體中心市場デアリマス東京及大阪ノ兩市ノ價格ニ付テ公定ヲスル、從テ其賣買モ東京市及大阪市ニ於テ行ハレルト云フコトヲ本體トスルト云フコトニナルデアリマス。詰リ物ノ値ト云フモノハ時ト云フモノヲ無視シテ考ヘルコトガ出來マセスト同時ニ、場所ト云フコトモ亦度外ニ置クコトガ出來マセスカラ、結局或ル時ニ或ル場所ニ於ケル需要供給ノ關係カラ生レル價格ト見ル外ハナイト思フノデアリマシテ、此相場ト云フモノヲ東京、大阪兩市ニ取リマシタ以上、ドウシテモ其處デ以テ取引ヲスルト云フコトガ本體ニナルモノデアアル、斯ウ考ヘルノデアリマス、又其東京市、大阪市ニ於ケル價格ヲ公定シタコトガ、ソレデハ其他ノ地方ニ於ケル公定價格ト云フモノガナイ場合ニハドウ云フ關係ヲ全國ノ米價ニ及ボスノデアアルカト云フコトヲ考ヘテ見マスト、是ハ要スルニ大取引市場ニ於ケル相場ト云フモノガ或ル範圍ニ限定セラレマスト、之ニ依ツテ至大ノ影響ヲ受ケテ參リマス地方ノ小取引市場ニ於ケル米價ト云フモノモ、中心大取引市場ニ於

ケル價格ニ影響ヲ受ケマシテ、ソチラノ價格ニ引付ケラレル、間接ニ全國ノ市場ニ於ケル價格ガ公定價格ニ引付ケラレテ行クト云フコトニナルデアラウト云フコトガ豫想サレルノデアリマシテ、ソレガ爲ニ大中心市場ニ於ケル價格公定ト云フ制度ヲ取ツタノデアリマス、若シモ公定價格主義ヲ取ツテ、而モ其公定價格ヲ全國ニ及ボシテ實行シヤウト云フコトニナリマスト、其價格ノ決定ニ付テ非常ニ困難ニ陥ルバカリデナク、其事務ノ關係モ大變ナ費用ヲ要スルコトニナルト思フノデアリマシテ、ソレ等ノ點カラ米穀統制法施行令ノ第一條ノ第一項ト云フモノハ決ツテ居ルノデアリマスト、ソレカラ農林大臣ノ定メテ參リマス最低價格及最高價格ハドウ云フ米ニ付テ定ムルノデアアルカト申シマスト、是ハ農林大臣ノ指定シタ銘柄及等級ノモノニ限ル、ソレハ昨日御研究ヲ願ヒマシタヤウナ銘柄等級限リノモノニ限定サレルコトニナルデアリマス（公定價格表參照）ソレカラ當該年度ノ米ト云フノハ、何故サウ云フ風ニシタカト申シマスト、大體米ノ値ヲ左右スルモノハ其米穀年度ノ米ガ主ナノデアリマスカラ、ソレニ依ツテ公定價格ヲ定メテ置ケバ、外ノモノハ別ニ公定價格ト云フコトヲ定メナクテモ宜カラウト云フノデ、サウ云フ風ニ致シテアル譯デアリマス、但シ當該年度ト云フ意味ハ甚ダ解釋ガ困難ナ場合ガ起ル時期ガアルノデアリマシテ、詰リ十一月カラ次ノ十月ノ末マデガ米穀年度ニナツテ居リマスカラ、十一月以後ノ場合、詰リ十二月ニ公定價格ヲ決メマシテ、ソレガ來年ノ十一月以後ニナツタ場合ニハ當該年度ノ内地米ト云フモノハ今年ノ米デアアルカ、來年生産セラレタ米デアアルカト云フコトガチョット判然シナイヤウナ點モアリマスノデ、ソレハ米穀統制法ノ施行規則ノ第十九條ニ規定ヲ設ケマシテ、米穀統制法施行令第一條第二項ノ當該年度ノ

内地米トハ翌年十一月一日以後最低價格及最高價格ノ公定ニ至ルマデハ、次年産ノ内地米トスト云フ解釋ノ規定ヲ設ケタ譯デアリマシテ、是ハ詰リ今年決メマシタ公定價格ハ來年ノ十一月以後ニハ、即チ昭和九年度ノ米穀ノ公定價格ニナルト云フコトヲ施行規則デ定メタ譯ニナリマス、サウシマスト今年ノ米ノ生産費アタリヲ參酌シテ定メタモノガ詰リ來年産ノ米ニ付テモ適用サレルト云フコトニナル次第デアリマス。此米穀統制法ノ第二條ノ勅令ハ只今申上ゲタ範圍ノ問題ニナルト思ヒマス、詰リ米穀統制法ノ施行令ノ第一條ノ範圍ニナルデアリマス。

ソレカラ米穀統制法ノ第二條ノ第二項ノ勅令、此勅令ハ何條ニナルカト申シマス、是ハ米穀統法ノ施行令ノ第二條ト第三條ノ規定ニナリマス、米穀統制法施行令ノ第二條ノ規定ハドウ云フ規定デアルカト申シマス、第一ニ最低價格ト云フモノノ定メ方ヲ決メタノデアリマシテ、最低價格ハ農林大臣ノ定ムル標準最低價格ヲ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ノ總平均タラシムル計算ノ下ニ命令ノ定ムル所ニ依リ格差ニ從ヒ各銘柄及等級ノ米穀毎ニ之ヲ定メル、斯ウ云フコトニ致シタノデアリマス、ソレデ此標準最低價格ト云フモノヲ定メナケレバイケナイノデアリマシマスガ其標準最低價格ト云フモノヲドウシテ定メルカト云フコトハ、施行令ノ第二條第二項ニ決メタノデアリマシテ、詰リ標準最低價格ハ當該年産米穀ノ生産費ニ運賃諸掛ヲ加ヘタル額ト、米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル價格トノ範圍内ニ於テ之ヲ定メルト云フコトニ致シマシタ、ソレデ標準最低價格ヲ定メマスル時ノ價格ト云フモノハ、米ノ生産費ニ運賃諸掛ヲ加ヘタル額ト云フモノガ一ツノ標準ニナリマスシ、他ノ一ツノ標準ハ後段ノ米價指數ト物價指

數トノ關係ヨリ算出シタル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル價格ト云フコトニナルノデアリマシテ、農林大臣ハ如何ニシテサウ云フ價格ヲ定メルノカト云フコトハ、次ノ項ニ書キマシタ、前項ノ農林大臣ノ定ムル價格ハ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ下値一割ニ相當スル價格ト下値二割ニ相當スル價格トノ範圍ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定メル、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマス、今申上ゲマスル米穀統制法ノ施行令ノ第二條第二項ノ米穀生産費ト云フモノハドウ云フ風ニシテ出スカト云フコトハ、是ハ米穀統制法ノ施行令デハ第四條以下ニ規定シテ居ルノデアリマス、又運賃諸掛ヲドウシテ出スカト云フコトハ、米穀統制法ノ施行令ノ第五條ニ規定致シテ居ルノデアリマス、此ノ規定ニ付テハアトデ簡單ニ申上ゲタイト思ヒマス、ソレカラ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ト云フコトハドウ云フ風ニシテ算出スルノデアアルカト云フコトヲ申上ゲヤウト思ヒマス。

米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ト云フ文字カラ參リマス、色々ナ算出ノ仕様がアルト思フノデアリマシテ、是マデ世間ニ論ゼラレテ居リマシヤウナ式ガ幾ツモアルノデアリマス、併シ其如何ナル方法ニ依ルノデアアルカト云フコトハ、是ハ米穀統制法施行規則ノ第二十條ニ書イテアルノデアリマシテ、其事ヲ申上ゲルトハツキリ分ルト思フノデアリマス、第二十條ニハ米穀統制法施行令第二條第二項及第三條第二項ノ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出スル價格、即チ物價參酌値ハ明治三十三年十一月一日以後各米穀年度ニ於ケル米價指數ノ物價指數ニ對スル割合、即チ米價率ヨリ米穀統制法施行規則ノ附録ニ定ムル算式ニ依リ算出シタル當該米穀年度ノ米價率ノ

趨勢値ヲ當該米穀年度ノ十一月ノ物價指數ニ乗ジタルモノヲ十一圓八十一錢ニ乗ジテ之ヲ算出スト云フコトニ書イテアルノデアリマシテ、結局其算式ハ附録ニ載セテアルト云フコトニナルノデアリマシテ、是ハ附則ノアトノ方ニ載ツテ居ルノデアリマスカラ、御覽ヲ願ヘバ分ルト思ヒマスカラ省略致シマス、米穀統制法施行規則ノ第二十條ニ定メタヤウナ算式ニ依ツテ算出シマシタ價值ノ下値一割ニ相當スル價格ト下値二割ニ相當スル價格トノ範圍内デ經濟事情ヲ參酌シテ、一方ノ價格ヲ定メル、ソレニ依ツテ定メラレタモノト、曩ニ申シマシタ米ノ生産費ニ運賃諸掛ヲ加ヘタ金額、其間ニ於テ最低價格ノ標準トナルベキモノ、詰リ標準最低價格ヲ定メテ行クト云フコトニナルノデアリマス。

ソレデ此標準最低價格ト云フモノガ今申上ゲマシタヤウニシテ出來上ツタ場合ニ、ソレヲドウシテ各銘柄及等級ノ米穀ニ振當テルノデアルカト申シマス、是ハ農林大臣ノ指定致シマシタ銘柄及等級、ソレハ大體現行ノ農林省告示ノ第七十三號ニ指定サレテ居リマス銘柄等級ノ米穀ヲ取ルコトニナツテ居ルノデアリマス、ソレハ東京及大阪ノ正米市場即チ深川及神田川ノ正米市場デ標準中米トナツテ居リマスモノ及大阪ノ道頓堀ノ正米市場ニ於テ標準中米トナツテ居リマスモノ、此モノヲ農林大臣ガ指定スル積リデアリマス、其銘柄ハ茲ニ申上ゲテ置キマス、千葉四等、茨城四等、栃木四等、福島(磐城、岩代)四等、會津四等、宮城(本石)四等、岩手四等、秋田(仙北、地廻)四等、本莊四等、山居四等、日向小粒四等、村山三等、大分三等、佐賀三等、熊本(城南)三等、鹿児島三等、但シ大分三等及鹿児島三等ハ神力種トス、ソレカラ大和小粒三等、大阪(攝津 小粒)三等

兵庫(播州小粒)三等、岡山(兩備小粒)三等、防長小粒三等、讃岐小粒三等、伊豫小粒三等、福岡(筑前小粒)三等、熊本(城北小粒)三等、此モノガ指定サレルコトニナツテ居リマス、(昭和八年十月二十四日農林省告示第三百八十五號參照)。其事ガ告示セラレルコトニナリマス、其ノ告示ニ依ツテ農林大臣ノ指定致シマシタ銘柄等級ノ米穀ノ最低價格ノ總平均ニ標準最低價格ガナルヤウニ計算スルト云フノデアリマシテ、例ヘバ茲ニ標準最低價格ガ二十二圓ト定ツタト致シマス、只今申上ゲマシタ銘柄等級ノ米ニ各々格差ガ定メ得ルノデアリマスカラ、即チ右ノ米穀ノ中例ヘバ茨城四等ヲ標準ト致シマス、之ニ對シテ何銘柄等級ノモノハ何錢上ゲトカ何錢下ゲトカノ格差ガ定メ得ルノデアリマスカラ其ノ内何米カヲ標準ト致シテ他ハ格差ニ依リ價格ヲ表シテ其ノ指定セラレタル銘柄等級ノ米ノ全部ノ價格ノ總平均ヲ二十二圓ナラ二十二圓ニナルヤウナ風ニ計算ヲ致シマシテ、其計算ノ結果標準銘柄等級ノ中ノ或ル銘柄及等級ノ米ガ何圓何十錢ト云フコトガ出テ來ル譯ニナリマス、其出テ來マシタ米ノ値ニ依ツテ他ノ買入ルベキ銘柄等級ノ全部ノ米穀ニ格差ニ依ツテ最低價格ト云フモノヲ振ツテ行ク、昨日御覽ヲ願ツタヤウナ銘柄等級ノモノガソレデ全部最低價格ト云フモノガ振ラレルコトニナル、斯ウ云フコトニ致シマシタノガ、此米穀統制法第二條ノ二項ノ最低價格ニ關スル勅令ニナリマス、此レガ即チ米穀統制法施行令ノ第二條ノ說明ニ當ルコトニナルノデアリマス、ソレデ最低價格ノ方ハ一應決マルノデアリマスガ、今私ガ申上ゲマシタヤウナコトハ米穀統制法施行規則ノ第二十二條ニ舉ツテ居ルノデアリマシテ、米穀統制法施行令第二條第一項ノ最低價格ハ、同條第二項ノ規定ニ依リ定メタル標準最低價格ヲ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ヲ

總平均シタルモノニ該當スルモノトシ、指定銘柄等級中標準ト爲スベキ米穀ニ對スル他ノ指定銘柄等級ノ米穀ノ格差ニ依リ指定銘柄等級中標準ト爲スベキ米穀ノ最低價格ヲ算出シ、之ニ對スル格差ニ依リ各銘柄及等級ノ米穀毎ニ之ヲ定ム、是ハ如何ニモ繰返シタヤウニ書イテアリマスノデ、分リ惡イノデアリマスガ、途中デ切ツテ御覽ヲ戴ケバ今私ガ申上ゲタヤウニナルト思フノデアリマス、ソレデ最低價格ノ決メ方ニ付キマスル勅令ノ規定ハ只今申上ゲマシタヤウニナルノデアリマスガ、最高價格ハ、ソレナラバドウシテ決メルカト云フコトガ次ニ統制法施行令ノ第三條ニ擧ツテ居ル譯ニナリマス、第三條ニ依リマスルト、最高價格ハ農林大臣ノ定ムル標準最高價格ト米穀統制法施行令第二條ノ標準最低價格トノ差額ヲ施行令ノ第二條ノ規定ニ依リ定メタル各銘柄等級ノ米穀ノ最低價格ニ加ヘテ之ヲ定メル、詰リ標準最高價格ト云フモノガ次ニ御説明致スヤウナ方法ニ依リ、例ハバ三十圓ナラ三十圓ト決リマシテ、サウシテ標準最低價格ガ二十二圓ナラ二十二圓デアル場合ニハ其差額ノ八圓ト云フモノヲ只今マデ申上ゲマシタヤウナ方法ニシテ決メマシタ各銘柄及等級ノ米ノ最低價格ニ加ヘマシテ、ソレヲ最高價格ト定メル、斯ウ云フコトヲ書イタノデアリマス、其標準最高價格ト云フモノハドウ云フ風ニシテ定メルカト申シマス、是ハ内閣統計局ニ於テ毎年前年ノ九月一日カラ其年ノ八月三十一日マデニ調査致シマシタ家計費ヲ基礎トシテ算出シタ價格、即チ家計米價ト米價指數ト物價指數トノ關係カラ算出シタ價格、即チ物價參酌値ト稱スルモノデアリマスガ、其價格ニ基キ農林大臣ノ定メタ價格トノ範圍内デ之ヲ定メル、斯ウ云フコトニナリマス、ソレデ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル價格ト云フモノハドウ云フ數

米穀統制
法施行令
第三條

デアルカト申シマス、米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ上値二割ニ相當スル價格ト上値三割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ定メルト云フコトニナルノデアリマス、ソレデ此事ハ第二條ト違ツテ只今申上ゲマシタ通り簡單ナコトニナルノデアリマスガ、此最低價格ヲ決メマス際ニ、物價參酌値ノ下値一割ニ相當スル價格ト下値二割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ、上値ヲ定メル時ニ上値二割ニ相當スル價格ト上値三割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ定メルト云フノハドウ云フ譯デサウ云フ標準ヲ取ツタノデアルカト云フコトヲ一應申上ゲテ置イタ方ガ宜カラウト思ヒマス、ソレハ此現行米穀法デ率勢米價ノ上値二割、下値二割ト云フコトヲ、家計費及生産費ト對照シテ最高價格ト最低價格ト基準價格ヲ定メマスルコトト致シタ時ニ、此二割ト云フノハ何ニ依ツテ定メタカト申シマス、ソレハ從來ノ年平均米價ニ對スル年内ノ最高、最低ノ範圍ト云フモノヲ長年ノ間計算シテ見マス、上下各々一割八分程度ノ値開ガアル、此範圍内ノ價格ト云フモノハ從來ノ平均ノ程度デアリマシテ、ソレハ生産者モ消費者モ共ニ經驗シテ堪ヘテ來タモノデアリマスカラ、其程度ノモノハ價格ノ調節ノ範圍外ニ於テモ宜シイト云フヤウナ考カラ、上下二割ノ範圍ト云フコトガ定メラレタヤウニ私ハ記憶致シテ居リマス、今度ハ最低價格、最高價格ヲ定メル場合ニ、米穀統制法ノ規定ニ依リマシテ米穀生産費及家計費、物價其他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定メルト云フコトニナツテ居リマシテ、最低價格ニハ米穀生産費ガ一ツノ參酌資料トシテ認めラレル、ソレト對照シテ物價其他ノ經濟事情ト云フモノガ參酌セララルコトニナルノデアリマス、詰リ物價其他ノ經濟事情ノ參酌方法トシテ物價參酌値ヲ用フル際ニ米價指數ト物價指數トノ關係カ

ラ算出致シマシタ物價參酌値ヲ標準ト致シマシテ其範圍ヲドウ決メルカト云フコトヲ研究シタノデアリマスガ、物價參酌値ト現實米價ノ其年内ニ於ケル上値下値ノ開キノ關係ヲ見マス、上値ニ於キマシテハ平均致シマシテ二割九分六厘ノ開キガアリマスシ、下値ニ於キマシテハ二割二厘ノ開キガアルノデアリマスカラ、最高ヲ三割ト押へ、下ノ最低ヲ二割ト押へテ限度ヲ決メテ譯デアリマス、ソレカラ何故其二割三割ノ間ニ一割宛ノ幅ヲ置イタカト申シマス、是ハ米價指數ト物價指數トノ關係、米價ノ動キ、サウ云フ關係ヲ見マス、値幅ハ漸次縮少サル傾向ヲ有スルノデアリマスカラ、上値三割下値二割ヲ各々更ニ一割位ヲ縮メタ所マデ經濟事情ヲ參酌シテ上下出來ルコトニスルノヲ適當トスルト云フノデ、下値ヲ二割ト押へレバ一割ト二割ノ間、上値ヲ三割ト押へレバ二割ト三割トノ間ト云フコトニ致シタ譯デアリマス、尙ホ農事試驗場長安藤博士ガ御調べ下サツタ所ノ數字ニ依リマス、大正元年以來各年ニ付米價率趨勢値ノ平均値ヲ一〇〇トシタモノニ對スル米價率ノ増減割合ノ十二「パーセント」以上ノモノヲ調べて見マス、上値ニ動イタ場合ガ、大正元年ガ一九・三九「パーセント」、大正二年ガ二七・四八「パーセント」、大正十四年ガ一五・七六「パーセント」、昭和元年ガ一七・七〇「パーセント」、昭和二年ガ一七・三五「パーセント」、斯ウ云フ風ニナリマシテ、下値ニ動イタ場合ヲ見マス、大正四年ガ一九・二二「パーセント」、大正五年ガ三一・六三「パーセント」、大正六年ガ二四・一八「パーセント」、大正十年ガ一六・四一「パーセント」、昭和六年ガ二二・六七「パーセント」デアリマシテ、上値ニ動イタ場合ト下値ニ動イタ場合ハ、斯ウ云フ風ニ關係ニナルノデアリマス、ソレデソレ等ノ計數ヲ用ヒテ此ノ兩方ノ趨勢ヲ對數曲線ニ依ツテ上値下値ニ如何ニ米

價ガ動クカト云フコトヲ算出ヲ致シテ見マス、大體上値ヲ百ト致シマシタ場合ニ、下値ノ「パーセント」ハ、只今昭和八年アタリハ八十三幾ラト云フコトニナルノデアリマス、之ガ將來ニ延ビテ參リマス、昭和十年、十一年トナルニ從テ、段々下値ノ方ガ幅ガ少クナル傾向ガ出テ參リマシテ、大體數年ヲ經過致シマス、上ガ百デアレバ下ハ七十幾ラト云フヤウナ傾向ヲ帶ルト云フコトデアリマス、ソレデアリマスカラ上値ヲ三割ト致シマス、詰リ上ガ三百ニナリマシタ場合ニハ下ハ二百十位ニナルノデアリマシテ、安藤博士ノ御計算カラ見マシテモ上値ヲ三割ト押へレバ下値ハ二割ニナルト云フコトハ、是ハ從來ノ最高ノ場合ノ趨勢ト最低ノ場合ノ趨勢カラ致シマシテ數字のニ出テ來ル、斯ウ云フ御話デアリマス、サウ云フ趨勢ヲ出シマシタモノト、又米穀部ノ方デ從來計算致シマシタ物價參酌値ニ對スル上値下値ノ開キト云フモノハ、過去數十年間ノ平均デハドウナルカト云フト、如何ニモ二割ト三割トナルト云フコトモ適合スルノデアリマス、詰リ上値ハ三割位ノモノヲ限度トシテ見、之ヲ家計費ニ對シテ對照シテ計算ヲシ、下値ハ二割位ノモノヲ限度トシテ之ヲ生産費ト對照シテ見ルト云フコトデアレバ、餘リ無理ハナイシ、米穀ガ經濟界ニ於ケル商品トシテ自由ノ取引ガ認メラレテ居ル以上是等ノモノヲ眼中ニ置イテ最高價格、最低價格ヲ決メマスル時ノ標準ニ致シタ方ガ宜シイト云フ考カラ、物價參酌値ノ上下ノ幅ニ付キマシテハ決定ヲ致サレマシタ譯デアリマス、斯ウ云フ風ニ致シテ最低價格及最高價格ト云フモノヲ定メテ行カウト云フコトガ此米穀統制法施行令ノ第二條ト第三條トニ掲ゲテアルノデアリマシテ、其關係ノ施行規則ハ施行規則ノ第二十條及第二十二條トニナルノデアリマス。尙ホ斯ウ云フ風ニ致シマシテ定メタ最低價格、最高價

格ヲ改定致シマス場合ガアリマスノデ、ソレハ米穀統制法ノ第二條ノ第三項ニ掲ゲテアルノデアリマス、其最低價格又ハ最高價格ノ改定ノ規定ヲ一應御説明申上ゲヤウト思ヒマス。

米穀統制法第二條第三項ノ規定ハ「米穀統制法第二條第二項ノ規定ニ依リ定メタル最低價格又ハ最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物價ノ變動著シキ場合又ハ米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若クハ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ之ヲ改定スルコトヲ得」ト云フコトニナツテ居リマシテ、年ヲ一本トスル建前ノ公定價格モ、此兩場合ニハ改定ガ出來ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、現行米穀法ニ於キマシテハ最低價格、最高價格ヲドウシテ定メルカト云フコトガ第五條ニ規定シテアルノデアリマシテ、米穀法第五條ニハ「最低價格又ハ最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル事項ヲ基礎トシ之ヲ定ム、米穀生産費、家計費、米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格」トナツテ居リマス、此價格改定ノコトハ法律ニ規定シテアリマセヌ、ソレハ勅令ノ定ムル所ニ依リト云フ條項ニ依リマシテ、米穀法施行令ノ第九條ニ書イテアルノデアリマス、米穀法施行令第九條ニハ「經濟狀況ノ異常ナル變動ニ因リ物價ノ變動著シキ場合ニ於テハ最低價格及最高價格ハ第三條及第四條ノ規定ニ準ジテ之ヲ改定スルコトヲ得」、第三條及第四條ト云フノハ最低價格ト最高價格ノ定メ方ノ規定デアリマス、ソレカラ「九月一日以後米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジタル場合又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ最低價格ハ率勢米價ノ下値二割ニ相當スル價格ヲ以テ之ヲ改定スルコトヲ得」、斯ウ書イテゴザイマス、此率勢米價ノ下値二割ニ相當スル價格ヲ以テ九月一日以後ノ米穀ノ需給狀況ニ著シイ變動ヲ生ジタル場合又ハ生ズルノ虞アル場合ニ最低價格ヲ改定

スルコトヲ得ルト申シマスコトハ、此ハ此法規ヲ制定致シマス際ニ明治ノ初年カラ六十年間ノ中ニ次年度ノ豐作ガ豫想サレマスル爲ニ米價ガ下落シタ十五ケ年ヲ取出シマシテ、其十五ケ年間ニ於ケル低落ノ歩合ヲ平均致シマシタ所ガ、九月一日以後ニ次年度ノ豐作ガ豫想サレタ爲ニ米價ノ低落シタ程度ノ平均ト云フモノヲ算定致シマシテ其ノ計算ノ結果ニ基キマシテ其レニ依ツテ、斯ウ云フ規定ガ米穀法ニ於テ設ケラレテ居ツタト記憶致シテ居ルノデアリマス、ソレハ兎ニ角ト致シマシテ現行ノ米穀法デハ基準價格ノ改定ノコトハ法律ニ書イテナイノデアリマスガ、今度ノ米穀統制法ニ於キマシテハ公定價格デアツテ、基準價格ヨリハ餘程確定的ナ嚴格ナモノデアリマスカラ、ソレカラ改定致シマスル場合モ亦法律ニ書イテ置イタ方ガ適當デアルト云フ意味合カラ、此第二條第三項ノ規定ガ出來テ居ル譯デアリマス、ソレデ此改定ニ付キマシテ矢張り勅令ニ委任ガシテアルノデアリマシテ、其委任サレタ事項ヲ米穀統制法施行令ノ第七條ノ規定ニ書キマシタ譯デアリマス、米穀統制法ノ施行令ノ第七條ノ規定ハ只今申上ゲマシタヤウニ、此米穀統制法ノ第二條第三項ノ委任ノ勅令デゴザイマシテ、米穀統制法第二條第三項ノ規定ニ依リ最低價格又ハ最高價格ノ改定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二條又ハ第三條ノ規定ニ準ジテ之ヲ行フ、第二條及第三條ノ規定ハ是ハ最低價格ト最高價格ノ決定ノ方法ニナルノデアリマス、ソレニ依ツテ改定ヲ致シテ行ク、又米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スルノハ九月一日以後ニ限ル、斯ウ云フ規定ヲ設ケテアルノデアリマス、九月一日以後ニ限ルト致シマシタノハ只今申上ゲマシタヤウニ大體次年度ノ豐作等ノ豫定カラ價格ヲ改定サレベキ狀況ニナルノハ九月以後デア

リマスカラ、斯ウ云フ風ニ書イタノデアリマス、但シ此規定ハ現行米穀法デモ一回モ實行シタコトノナイモノデアリマスカラ、將來其必要ガ起ルカドウカ、是ハマダソレ程緊密ニ考ヘテ居リマセヌ、ソレカラ其關係ノ米穀統制法施行規則ハ第何條ニナルカト申シマス、第二十一條ニナリマシテ物價ノ變動著シキ場合ニ於テ米穀統制法施行令第七條第一項ノ規定ニ依リ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スルハ物價指數ガ最低價格又ハ最高價格ノ決定ニ付米價率ノ趨勢値ヲ乘ジタル物價指數ニ比シ五分以上變動シタルトキニ限ル、斯ウ云フ規定ヲ置イタノデアリマス、此米穀統制法施行令ノ第七條第二項ノ規定ハ米穀ノ需給狀況ニ變動ガアリマシタ場合ニ於テ公定價格ノ改定ヲ行ヒ得ル時期ヲ定メマシタダケデアリマシテ、其内容ハ總テ第七條第一項ノ中ニ這入ルコト考ヘマス、ソレデ其中物價ノ變動ガ著シイ場合最低價格、最高價格ヲ改定スルト云フ其物價ノ變動ガ著シイト云フノハドウ云フ場合デアアルカト云フコトハ、是ハ大分ニ難シイ問題デアリマスカラ、豫メ其標準ヲ法規ニ於テ規定致シマシテ一般ニ周知ヲ居ツテ貫ツテ取扱ツタ方ガ適當デアラウト云フノデ此處ニ書キマシタノデ、ソレハ最低價格、最高價格ヲ決定致シマス時ニ用ヒタ物價指數ガ其後五分以上變動シタ場合ニハ改定ガ出來ルト云フコトニ致シタ譯デアリマシテ、一年內ニ五分以上物價指數ガ變ルト云フコトハ、是ハ餘リ度數ハ多イコトデハナイノデアリマス、ソレデ例ヘバ物價指數ガ百八十ノ時ニ五分以上指數ガ變ツタト云フコトニナルト、結局物價指數ガ九以上變ルトコトニナリマスカラ、餘程多イ變リデアリマスカラ、サウ云フ時ニハ價格ノ改定ガ出來ルト云フコトニ致シタノデアリマス。此觀念ハ米ガ商品トシテ經濟市場デ取扱ハレルノデアアルカラ又生産者、消費者共ニ貨幣ヲ以テ賣買

ヲシテ居ルノデアアルカラ、貨幣ノ購買力ヲ無視致シマシテ價格ヲ決定スルト云フコトハ不適當デアルト云フ觀念デアリ、結局米穀統制法ノ物價其他ノ經濟事情ヲ參酌シテ最低價格ノ決定ノ時ニハ參酌致サナケレバイカスト云フコトニモ對應スルコトニナルト思フノデアリマス。

ソレカラ便宜上茲ニ公定價格ノ決定ニ當リ參酌セラルル生産費及家計費ノ點特ニ生産費ノ算出方法ノ變リマシタ點ト、運賃諸掛ヲドウ致シマスカト云フ點ヲ申上ゲテ置キマス。

此生産費ノ問題ニ付キマシテハ米穀統制法ニハ第二條第二項ニアリマスノト、モウ一ツハ第十條ニ米穀生産費、家計費並ニ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産高、現在高、移動及價格ノ調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムトアリマスル所ニアルノト、此二ツノ規定ガアルノデアリマスガ、最低價格ノ決定ニ用ヒマスル生産費ハドウシテ調査スルカト云フコトヲ米穀統制法施行令第四條ニ書イテアリマス、是ハ現行米穀法施行令第五條ニ該當スル規定デアリマス、米穀統制法第二條ノ米穀生産費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年調査シタル各農家ノ玄米一石當生産費(例外ト認ムルモノヲ除ク)ヲ平均シテ之ヲ算出ス、前項ノ一石當生産費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル費用ノ合計額ヨリ副收入ノ金額ヲ控除シタルモノヲ米穀收量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス、ソレカラ列記シテアルノガ各號ノ事項即チ生産費ノ調査項目ニナルノデアリマス、即チ一種粃代、二肥料代、三勞賃、四畜力費、五諸材料費、六農舍費、七農具費、八租稅其ノ他ノ公課、九部落協議費又ハ之ニ準ズルモノ(水利費又ハ病蟲害驅除豫防費タルモノ)十土地資本利子、十一小作料、十二米穀検査手數料、ソレカラ、前項各號ニ掲グル事項、副收入及米穀收量ノ調査方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム、

斯云フコトニナツテ居リマス、ソレデ之ニ關スル施行規則ノ規定ハ第一條カラ第十八條マデニ規定シテアリマスガ、大體米穀法ノ場合ト同様ノ規定ニナリマスカラ、異ツタ所ダケヲ申上ゲテ置イタラ宜カラウト思ヒマス、此種勸代ノ規定、現行米穀法施行規則ノ第八條ノ規定ニ該當スルノガ、米穀統制法施行規則ノ第三條ノ規定デアリマスガ、御覽ニナリマスマヤウニ、但書ガ加ツタダケガ異ツテ參リマス、米穀統制法施行規則デハ、但シ購入シタル種籾原料ニ付テハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依ル、ト云フコトガ附ケ加ヘテ書イテアルノデアリマシテ、是ハ肥料ノ調査規定ト趣旨ヲ同様ニシ實際買ツタ場合ハ其費用ニ依ルト云フコトニ規定セラレタコトニナルノデアリマスソレカラ肥料、勞賃、畜力費、諸材料費、農舍費、農具費ニ付テハ、夫々異ツタ所ハアリマセヌガ此八ノ租稅其ノ他ノ公課ノ所ニ違ツタ點ガアリマス、ソレハ現行米穀法施行規則デモ既ニ規定セラレテ居ルノデアリマスガ、去年ノ議會終了後生産費ノ調査ニ關スル實際家竝ニ學者ノ會議ナドヲ開キマシテ色々研究致シマシタ結果其ノ經過ヲ見マシテ、戸數割ヲ加ヘルト云フコトニ致シタノデアリマス、其爲ニ米穀法施行規則ノ第十五條ノ第一項ノ第六號ニ戸數割ト云フモノヲ加ヘマシテ、其算出ノ方法ヲ其條文ノ末項ニ書イタノデアリマスガ、ソレト同ジ内容デアリマスガ、新シク米穀統制法施行規則ヲ立案致シタノデアリマスカラ、此順序ヲ整理致シマシテ第六ニ書キマシタ戸數割ヲ雜種稅ノ次ノ第四ニ引上ゲマシタ、ソレハ稅ノ問題デアリマスカラ一所へ纏メテ譯デアリマス、ソレデ水利組合費ト農會費ト云フモノヲ順序ヲ五、六ト繰下ゲタ譯ニナリマス、其結果其次ノ説明ノ書方ガ少シ變更シタ譯デアリマス、併シ現行ノ規則トハ内容ハ變リマセヌ、茲ニ注意シテ置クコト

ハ昭和七年ノ米ノ生産費調査ニ使ヒマシタ場合ニハ戸數割ガ這入ツテ居リマセヌノガ、昭和八年ノ米ノ生産費ノ調査カラハ此戸數割ガ加ツテ來ル、從テ從前ノモノヨリハ生産費ガ其分ダケハ増加シテ計算セラレルト云フ點デアリマス、ソレカラ部落協議費又ハ之ニ準ズルモノ（水利費又ハ病蟲害驅除豫防費タルモノ）ト致シマシテ、之モ第六十四議會ノ終了致シマシタ後、只今申シマシタ生産費調査ニ關スル協議會ヲ開イテ、其模様モ參酌致シマシテ改正シタノデアリマス、現行米穀法ノ施行令ノ規定ト同ジニナツテ居リマス、ソレカラ土地資本利子ノ算定方法は、異ツタ所ハアリマセヌ、小作料ノ算定方法モ異ツタ所ハアリマセヌガ、米穀検査手數料、此米穀検査手數料ト云フモノハ、是モ生産費ノ調査ニ關スル協議會ノ結果規定セラレタノデアリマシテ、此規定ハ現行ノ米穀法施行規則ノ中デハ第十七條ノ二トシテ規定セラレテ居ルノヲ、今度ハ第十四條ニ統制法ノ施行規則トシテ規定セラレタ譯デアリマス、結局ココデ申上ゲルノハ租稅其ノ他ノ公課ノ中ニ戸數割ヲ加ヘラレ、ソレカラ部落協議費又ハ之ニ準ズルモノガ次ニ加ハリ、ソレカラ米穀検査手數料、此三ツノモノガ生産費調査ノ項目ノ中ニ八年産ノ生産費調査ニ付キマシテハ加ハツテ居リマスカラ、ソレダケ記憶シテ置イテ戴キタイノデアリマス。

ソレカラ其生産費ト共ニ加ハル運賃諸掛ト云フノハドウ云フモノニナルカト申シマス、是ハ米穀統制法ノ施行令第五條ニ規定セラレテ居ルノデアリマシテ、其根據ハ統制法ノ第二條第二項ノ勅令ノ定ムル所ニ依リ物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌スト云フコトニ根據ガアルノデアリマシテ、此運賃諸掛ト云フモノハ生産費ヲ調べテ、ソレヲ最低價格ヲ公定スル場合ノ參酌資料ニ致シマスル以

上加ヘナケレバイカスト云フ意見ガ議會デモ起リマシテ、其當時カラ運賃諸掛ト云フモノヲ一々米穀生産費調査農家ニ付テ調べルコトハ不適當ナコトデアルカラ、經濟事情トシテ參酌スル、ソレデ生産費ノ外ニサウ云フモノヲ加ヘルヤウニ致スコトヲ研究スルコトヲ考慮スルト云フコトニナツテ居リマシタノデ、ソレヲ此勅令ニ規定シタノデアリマス、其規定ハ、運賃諸掛ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル費用ノ合計額ヲ平均シ之ヲ算出スト云フコトニ致サレマシテ、一ガ農林大臣ノ指定スル地方主要米穀集散地ニ於テ要スル運送費及積込賃、二ガ前號ノ地方主要米穀集散地ヨリ第一條ノ地迄ノ鐵道又ハ船舶ノ運賃、三ガ第一條ノ地ニ於テ要スル積卸賃及小運送費ト云フコトニナルノデアリマス、此勅令第五條ノ命令ト云フノハ施行規則第二十四條ニ規定セラレテ居ルノデアリマシテ、施行規則ノ第二十四條ニ、米穀統制法施行令第五條ノ規程ニ依リ運賃諸掛ハ同條各號ニ掲グル費用ノ合計額ヲ道府縣ヨリ移出セラルル米穀ノ數量ニ依リ加重シテ平均シ之ヲ算出スト云フコトニナルノデアリマス、此モノヲ調べマス時ニハ各府縣ヨリ移出サレル米穀ノ移出數量ヲ、夫レ々々ノ數量ニ乗シテ其ノ合計ヨリ計算シテ行ク、例ヘバ新潟カラ縣外ヘ移出サレル數ガ澤山アレバ、其數量ヲ掛ケ、又長野縣カラ出ル米ガ極メテ少イトスレバ、其極メテ少イ數ヲ長野ノ此費用ニ付テハ掛ケル、サウシテ其ノ總計ヲ平均シテ算出スル所謂加重平均ヲシテ行クト云フ趣旨ヲ明カニシタノデアリマシテ、此農林大臣ノ指定スル主要米穀集散地ト云フノハ左ノ通りデアリマス。

北海道 旭川市、小樽市、瀧川町
 青森 青森市、黒石町
 岩手 花巻町、水澤町
 宮城 仙臺市、古川町、岩沼町
 秋田 大曲町、本莊町、土崎町
 山形 酒田市、山形市
 福島 郡山市、中村町、若松市
 茨城 土浦町、下館町
 栃木 氏家町、栃木町
 群馬 前橋市
 埼玉 熊谷市、粕壁町
 千葉 佐原町、木更津町
 神奈川 小田原町
 新潟 新潟市、長岡市、直江津町
 富山 魚津町、伏木町
 石川 金澤市
 福井 三國町

山梨 韮崎町
 長野 長野市
 岐阜 岐阜市
 静岡 静岡市
 愛知 名古屋市、豊橋市
 三重 津市、上野町
 滋賀 大津市、彦根町、八幡町
 京都 京都市
 兵庫 豊岡町、味間村、姫路市
 奈良 高田町
 和歌山 橋本町
 鳥取 鳥取市、米子市
 島根 安來町、今市町
 岡山 岡山市、津山市
 廣島 福山市、甲立町
 山口 小郡町、下關市
 徳島 徳島市

香川	高松市、丸龜市	長崎	長崎市
愛媛	三津濱町	熊本	川尻町
高知	高知市	大分	大分市、中津市
福岡	門司市、久留米市、宇島町	宮崎	都城市
佐賀	福治村、神埼町	鹿児島	鹿児島市

米穀統制
法施行令
第六條

ソレカラ家計費ノ方ノ算出規定デアリマスガ、是ハ勅令ノ第六條ニアリマスノデ、現行ノ米穀法
ノ施行令ノ第六條ニアルモノト全ク同一デアリマスカラ御説明ヲ申上ゲマセヌ。

米穀統制
法施行令
第八條

ソレカラ公定價格ノ問題ニ付キマシテアト申上ゲルコトハ數ヶ條アルノデアリマスガ、ソレハ公
定價格ヲ東京、大阪ニ決メマシテ、其處デ買入又ハ賣渡ヲ實行シテ行クト云フヤウナ場合ニ倉庫ノ
關係デアリマストカ其他ノ必要カラシテ、東京市及大阪市以外ノ土地ヲ受渡地ニ指定シタ時ノ代價
ヲドウ決メルカト云フコトデアリマシテ、是ハ勅令ノ第八條ニ決メテアルノデアリマス、手續ノ問
題デアリマス、其場合ニハ受渡地カラ東京市又ハ大阪市ニ行クマデノ運賃諸掛ノ範圍内デ農林大臣
ノ定メル金額ヲ參酌シテ買入代金、又ハ賣渡ノ代金ヲ定メルコトガ出來ル、斯ウ云フノデアリマス、
ソレナラバ秋田ノ米ヲ東京デ買ツタト致シマシテ、秋田デ受渡ヲ認メルト云フ場合ニハ、サウシテ
米ガ秋田ニ在ル場合ニハ、東京カラ秋田マデ參リマス運賃諸掛ノ範圍内デ農林大臣ガ何程ト決メタ
金額ヲ其買入代金カラ控除シテ買入代金ヲ定メルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス

又反對ニ東京ニ在リマスル米ヲ倉庫ノ關係上横濱へ持ツテ行ツテ受渡ヲシナケレバナラヌト云フヤ
ウナ時ニハ其金額ヲ加ヘルコトモ出テ來ルト思フノデアリマス、ソレカラ是ハ最高價格ニ依ル賣渡
ノ場合デアリマスガ、最高價格ニ依ル賣渡ノ要求ガアリマシテ、例ヘバ大阪ニ於テ其米ヲ賣ツタ場
合ニ、其米ハ實際岡山ニ在ツタト云フヤウナ場合ニハ岡山カラ大阪マデ持ツテ參リマス代金ヲ賣渡
代金ノ中カラ控除シテ賣渡代金ヲ決メルト云フコトモアラウト思フノデアリマシテ、サウ致シマセ
ヌト最高價格ノ時ハ大體消費地デ米ノ要ルコトガ多イ、サウ云フ場合デ大阪デ買ツテ大阪デ受渡ガ
出來ヌト云フ場合ガアリマス困リマスカラ、サウ云フ場合ニハ受渡地カラ大阪マデ持ツテ來ル費
用ヲ代金ノ中カラ控除シテ賣渡ス場合モアル、斯ウ云フ意味デ買入又ハ賣渡ノ代金ヲ公定價格カラ
運賃諸掛ノ範圍内デ定メタ一定ノ金額ヲ差引或ハ加ヘテ定メルコトガ出來ルト云フコトヲ書イタノ
ガ八條ノ規定ニナリマス、其ノ控除スル場合ノ金額ハ左ノ通りデアル。

東京市ニ於テ最低價格又ハ最高價格ニ依リ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合

受渡地	金額
北海道所在指定倉庫	金一圓四十一錢
青森縣所在指定倉庫	金七十七錢
宮城縣所在指定倉庫	金四十八錢
福島縣所在指定倉庫	金四十一錢
秋田縣所在指定倉庫	金六十三錢

山形縣所在指定倉庫	金五十二錢
新潟縣所在指定倉庫	金四十二錢
富山縣所在指定倉庫	金五十二錢
栃木縣所在指定倉庫	金二十三錢
群馬縣所在指定倉庫	金二十四錢
茨城縣所在指定倉庫	金十九錢
千葉縣所在指定倉庫	金十八錢
埼玉縣所在指定倉庫	金十五錢

大阪市ニ於テ最低價格又ハ最高價格ニ依リ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合

受 渡 地 金 額

石川縣所在指定倉庫	金四十二錢
福井縣所在指定倉庫	金三十六錢
岐阜縣所在指定倉庫	金三十錢
愛知縣所在指定倉庫	金三十三錢
三重縣所在指定倉庫	金二十三錢
滋賀縣所在指定倉庫	金十五錢
京都府所在指定倉庫	金十二錢

兵庫縣所在指定倉庫	金十錢
鳥取縣所在指定倉庫	金四十二錢
島根縣所在指定倉庫	金四十九錢
岡山縣所在指定倉庫	金三十一錢
廣島縣所在指定倉庫	金四十二錢
山口縣所在指定倉庫	金五十七錢
香川縣所在指定倉庫	金二十一錢
福岡縣所在指定倉庫	金五十七錢
熊本縣所在指定倉庫	金六十八錢
大分縣所在指定倉庫	金五十五錢
鹿兒島縣所在指定倉庫	金七十八錢

米穀統制
法施行令
第九條

ソレカラ米穀統制法第三條ノ規定ニ依リマスト最高價格又ハ最低價格ニ依ル申込ガアツタ場合ニハ何時デモ買入又ハ賣渡ヲ爲スコトニナツテ居リマスガ、其例外ヲ茲ニ第九條ニ規定シタノデアリマシテ、第九條ノ規定カラ致シマス、詰リ申込數量ト云フモノガ一定數量ニ達シナケレバ之ヲ拒絶スルコトガ出來ルト云フコトニ致シテアルノデアリマシテ、ソレハ施行規則ノ第二十八條ニ書イテアルノデアリマス、第二十八條ニ最低價格ニ依ル賣渡又ハ最高格價ニ依ル買入ノ申込ハ同一銘柄百俵(呎)以上ニシテ同一ノ等級及粒種ノモノ二十俵(呎)以上タルコトヲ要ス、但シ特別ノ理由アル

場合ハ此ノ限ニ在ラズ、トシマシタガ、原則トシテ施行規則ノ第二十八條ノ數量ニ達シナイ時ハ買入ノ申込ニ應ジナイコトガ出來ル、賣渡ノ申込ニ應ジナイコトガ出來ルト云フコトニシタノデアリマス、ソレカラ勅令ノ第九條ノ二項ニ買占其他不當ノ利得ヲ圖ル目的ヲ以テ申込ヲ爲シタルモノト認メタルトキハト云フコトガ一ツ加ハツテ居リマスガ、ソレハ最高價格ニ値ガ近クナツテ來マシタ時ニ政府ニ賣渡ヲ申込ミマシテ、最高價格デ以テ政府ノ米ヲ澤山ニ買占ヲシテシマツテ、値ガ上ツテ最高價格以上ニナツテカラ儲ケテ賣渡スト云フヤウナ計畫ヲスルト云フコトモ、惡イ者ガアレバ考ヘルノデアリマスカラ、サウ云フ風ナコトニ依ツテ不當ナ利益ヲ圖ル爲ニ申込ヲ爲シタト云フヤウナコトガ認めラレル場合ニハ、最高價格ニ依ル賣渡ヲナサナイデ宜シイト云フ趣旨ノ例外ノ規定ヲ設ケタノデアリマス。

ソレカラ其次ニ最高價格ニ依ル買入ノ申込ガアツタ場合ニ、政府ニ於テ其要求ノアツタ銘柄等級ノ米ヲ持ツテ居ナイ時ハドウスルカト云フコトヲ米穀統制法施行令ノ第十條ニ書イタノデアリマスガ、例ヘバ政府ハ、買入申込者ガ申込ノ際反對ノ意思ヲ表示シタ場合ヲ除クノ外、他ノ銘柄等級ノ米ヲ賣渡スコトヲ得ト云フコトニ致シタノデアリマス、ソレカラ米穀統制法ノ施行令ノ第十條第二項ノ規定ハ、前項ノ規定ニ依ツテ最高價格ノ定メナイ銘柄及等級ノ米穀ヲ賣渡ス場合ニハ、其價格ハ農林大臣ガ之ヲ定メテ公示スルト云フコトニ致シマシタ、ソレハ外國米ナドヲ買ツテ來テ賣ルトカ或ハ朝鮮米ヲ買ツテ賣ルトカ云フヤウナ場合ニハ、公定價格ガナイノデアリマスカラ、必要ニ應ジテ其價格ト云フモノヲ農林大臣ガ定メテ、ソレデ以テ賣却スルコトガ出來ルト云フコトヲ、施

米穀統制
法施行令
第十條

行令ノ第十條ニ書イタ譯デアリマス、ソレカラ此買入、賣渡ニ關スル手續ニ付キマシテハ統制法施行規則ノ第二十五條、第二十六條、第二十七條ト云フ所ニ規定ヲ致シテアルノデアリマシテ、其大體ハ農林大臣ニ申込書ヲ提出スルコト、其申込ヲ受ケタ場合ニハ受渡ノ場所及時期ヲ申込者ニ通知スルコト、請書ヲ提出スルコト、又道府縣ノ移出検査ニ合格シタル米タルコト、受入検査ニ對シテハ賣渡人が異議ヲ述ベルコトヲ得ザルコト等ノ規定デアリマス、第二十五條ニモ賣渡申込書又ハ買入申込書ヲ農林大臣ニ提出スベシト云フコトニナツテ居リマスシ、第二十六條ニモ農林大臣ガ申込ヲ受ケタ時ト云フヤウニ規定シテアリマスガ、是ハ施行規則デアリマスカラ斯ウ書イタノデアリマシテ、此農林大臣カラハ米穀事務所長ニ委任ヲスルト云フコトニ致シマシテ、取扱ハ全部米穀事務所デ致スト云フコトニスルト云フ手順ニナツテ居リマス、ソレハ何レ告示致シマストカ、或ハ内訓ヲ出ストカ云フコトニ致シマシテ、世間ニ判明サセルコトニナツテ居リマスカラ一言申上ゲテ置キマス。

ソレカラモウ一ツ申上ゲルコトハ季節調節ノ問題ニナルノデアリマスガ、簡單ニ申上ゲテ置カウト思ヒマス。

此季節調節ハ先程申上ゲマシタヤウニ、米穀統制法第四條ニ依ツテ、内地ニ於ケル各道府縣及朝鮮、臺灣カラ内地ノ市場ニ出廻ツテ參リマス米ヲ出廻期ニ於テ買入ヲ爲シ、出廻期後ニ於テ賣渡ヲ爲スト云フコトニシテ、公定價格ト云フモノガ定マル他ノ一方面ニ於テ出廻數量ヲ調節シテ價格ガ低落シタリ或ハ騰貴シタリスルコトヲ少クシヤウト云フ建前ニナツテ居ルノデアリマシテ、其時ノ

價格ハ公定價格ノ範圍内デ市價ニ準據シテ之ヲ定メルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、ソレ
デ是ハ勅令デ以テ一定ノ制限ヲ付ケテ實行シナケレバナライコトニナツテ居リマス、而シテ此勅
令ハ第十一條以下ニ規定セラレテ居ルノデアリマス、第一段ニ米穀統制法第四條ノ規定ニ依ル内地米ノ買入數
ノ買入數量ノ限度ヲ書イタノデアリマス、第十一條ノ規定ニ於キマシテハ季節調節ノ爲
量ハ、其季節調節ヲ致シマスル米穀年度ニ於ケル一年間ノ移出數量ヲ推算致シマシテ、其推算致シ
マシタ一年間ノ移出數量ヲ十二箇月デ割ツテ一ト月分ヲ出シ、ソレカラ又同一ノ米穀年度ニ於ケル
十一月カラ二月ニ至ル毎月ノ推算移出數量ヲ算出シ之レト年平均セル月平均移出數量トニ付過剩分
ヲ算出シ、其差額ノ四月分ノ合計ヲ限度トシテ買入ル、コトガ出來ル、斯ウ云フコトニ致シタノデ
アリマス、サウシテ年移出推算數量ト云フモノハ何ニ依ツテ定メルカト申シマス、ソレハ各道府
縣別ノ第二回米穀豫想收穫高ニ其道府縣ノ米穀生産高ニ對スル同一ノ道府縣ノ産米ノ地域外移出數
量ノ割合ヲ、前五箇年ニ付テ平均シタモノヲ乘ジテ算出スル、ソレヲ全國ニ合計スルコトニナリマ
ス、結局五箇年ニ亘ツテ縣外移出數量ト生産額トノ割合ヲ出シマシテ、其割合ヲ第二回米穀豫想收
穫高ニ掛ケルト云フコトニナルノデアリマス、ソレカラ茲ニ米穀統制法施行令ノ第十一條ノ二項ニ
依リ命令ヲ以テ定ムルト云フノハ今ノ農林統計規則ヲ指シテ居ルノデアリマシテ、外ニハアリマセ
ヌ、ソレカラ同ジク第三項ニアリマス第一項ノ各月推算移出數量ハ各月ニ於ケル各道府縣ニ於ケル
産米ノ地域外移出數量ノ年移出數量ニ對スル割合ヲ前五箇年ニ付テ平均シタルモノヲ當該道府縣ノ年
推算移出數量ニ乘ジタルモノノ合計額トス、是ハ今申上ゲタコトヲ條文ニ書イタダケデ、五箇年平

均ノ割合デ各月ノ移出數量ヲ算出スルト云フコトニナルノデアリマス、ソレカラ朝鮮米及臺灣米ノ
買入數量ノ限度ト云フモノモ之ニ準ジテ五年間ノ統計ニ依ツテ算出シテ行ク、斯ウ云フコトニ規
定ヲシタノガ季節調節ノ第十一條ノ規定ニナリマス、ソレカラ季節調節デ買ツタ米ハ法律ノ規定ニ
依リマシテ出廻期以後ニ於テ賣却ヲスルコトニナツテ居リマシテ、現行米穀法ノ規定ニ於キマシテ
ハ、其附則ノ終リノ方ニ昭和七年法律第三十四號、附則第四項ノ規定ニ依リ買入レタル米穀ハ當該
米穀年度内ニ於テ之ヲ賣渡スモノトス、ト書イテアリマス、ソレデ現行法ニ依リマスト年度内ニ賣
却シナケレバイケナイコトニナツテ居リマス、今度ハソレニ對シテ必要ナ場合ニハ賣ラヌデモ宜イ
ト云フ規定ヲ設ケタノガ此第十二條ノ規定デアリマス、即チ米穀統制法第四條ノ規定ニ依リ買入レ
タル米穀ノ數量ニ相當スル米穀ハ當該米穀年度内ニ於テ賣渡ヲ爲スモノトス、斯ウ書イテアルノ
デアリマシテ、是ハ今申シマシタ米穀法施行令ノ附則ニ依リ買入レタル米穀ハ當該米穀年度内ニ於
テ之ヲ賣渡スモノトスト云フコトトハ違ツテ居ルノデアリマス、買入レタ米穀ノ數量ニ相當スル米
穀ヲ賣渡スト云フノデアリマスカラ、其米ハ新シイモノヲ取ツテ置イテ、若シモ古い米デモアレバ
外ノ古い米ヲ賣ツテモ、同一ノ數量ノ米ヲ賣却スレバ宜イト云フコトニナルノデアリマス、ソレカ
ラモウ一ツノ例外ハ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ニ該當スル米穀ノ農林大臣ノ指定スル市場ニ於
ケル平均價格ガ標準最低價額ノ上値五分ニ相當スル價格以下ニアル場合ハ此ノ限りニ在ラズ、ト規
定シテアルノデアリマス、是ハ現在ノ米穀法施行令ノ第十二條デ指定スルト同ジ市場ヲ指定スル豫
定デアリマスシ、ソレカラ銘柄等級ノモノモソレト同ジモノヲ指定スル豫定デアリマス、詰リ農林

大臣ノ指定スル銘柄等級ニ該當スル米穀ト云フノハ曩ニ公定價格ヲ決メル時ニ指定スルト申上ゲマシタト同ジヤウニ深川、神田川及道頓堀ノ標準中米ニナツテ居ル銘柄及等級ノ米ヲ指定スル豫定デアリマスシ、ソレカラ市場ト致シマシテハ深川、神田川及道頓堀ニ於ケル市場ヲ指定スルコトニナツテ居リマス、其ノ指定ハ左ノ如クニナリマス。
即チ米穀統制法施行令第十二條、第二十一條及米穀統制法施行規則第五十二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市場竝ニ銘柄及等級ハ左ノ通デアリマス

米穀統制法施行令及米穀統制法施行規則ノ規定ニ依ル
市場竝ニ銘柄及等級

一、市場

深川正米市場

所在地 東京市深川區佐賀町一丁目三十番地ノ一

神田川正米市場

所在地 東京市神田區佐久間河岸三十七號地ノ二

道頓堀正米市場

所在地 大阪市西區道頓堀通一丁目九番地

二、銘柄及等級

深川正米市場ニ於テ取引セラルルモノ

神田川正米市場ニ於テ取引セラルルモノ

千葉四等、茨城四等、栃木四等、福島(磐城、岩代)四等、會津四等、宮城(本石)四等、岩手四等、秋田(仙北、地廻)四等、本莊四等、山居四等、日向小粒四等、村山三等、大分三等、佐賀(杵島)三等、熊本(城南)三等、鹿兒島三等但シ大分三等及鹿兒島三等ハ神力種トス

道頓堀正米市場ニ於テ取引セラルルモノ

大和小粒三等、大阪(攝津)小粒三等、兵庫(播州)小粒三等、岡山(兩備)小粒三等、防長小粒三等、讃岐小粒三等、伊豫小粒三等、福岡(筑前)小粒三等、大分(豊後)小粒三等、熊本(城北)小粒三等

ソレデ平均價格ハドウシテ決メルカト云フコトハ二項ニ書イテアルノデアリマシテ、ソレハ前項ノ平均價格ハ前項ノ市場ニ於テ毎日取引セラレタルモノノ一石當平均取引價格ノ總和ヲ平均シテ之ヲ定ム、是ハ丁度現行米穀法施行規則ノ第二十六條ニ當ルモノニナリマス、ソレト同ジヤウナ方法ニナルノデアリマス、ソレカラ前項ノ一石當平均取引價格ハ各銘柄及等級別ニ、其ノ取引總金額ヲ取引總數量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス、丁度是ハ現行ノ米穀法施行規則第二十六條第二項ノ規定ト同ジ方法ニナツテ居リマス、結局現在ノ規定ト變ル所ハナイ、而シテ此目的ハ米穀ノ季節出廻調節ト云フコトモ、直接ノ目的ハ數量ノ調節デアリマスガ、ソレガ價格ニ惡影響ヲ及ボスコトガアツテハ困

ルノデアリマスカラ、深川、神田川及道頓堀ノ市場ニ於ケル指定米穀ノ平均價格ト云フモノガ、標準最低價格ノ上値五分以内ノ場合ニハ、拂下ニ依ツテ價格ヲ崩ス虞ガアツテハイケマセヌカラ、拂下ヲ不適當ト認メル場合ニハ年度内ニ於テ賣渡ヲサナクテモ宜シイ、ソレニ依ツテ價格ヲ十分ニ維持シヤウト云フコトヲ考ヘタ規定ニナルデアリマス、例ヘバ此標準最低價格ガ二十二圓ノ場合ニ、二十三圓十錢ト云フヨリ以下ニ只今申シタ平均値ガナツテ居ル場合ニハ、年度内ニ賣却ヲシナイデ宜シイト云フコトニナルデアリマス。

米穀統制
法施行令
第十三條

ソレカラ第十三條ハ朝鮮米及臺灣米ノ買入又ハ賣渡ハ、朝鮮米ニ在リテハ朝鮮ニ於テ、臺灣米ニ在リテハ臺灣ニ於テ之ヲ行フ、但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ、ト云フコトニ規定セラレタノデアリマシテ、之モ矢張り現行米穀法施行令ノ附則第三項、昭和七年法律第三十四號附則第四項ノ規定ニ依ル朝鮮米及臺灣米ノ買入、賣渡、加工又ハ貯藏ハ朝鮮米ニ在リテハ朝鮮ニ於テ臺灣米ニ在リテハ臺灣ニ於テ之ヲ行フ、但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ、ト云フノト同ジ趣旨ヲ定メタコトニナツテ居リマス、ソレデ此特別ノ事情ト云フノハドウ云フコトカト申シマス、トウモ朝鮮ト云フ市場ハ狭イ市場デアリマスカラ旨ク賣却ノ出來ナイコトモアリマス、又其他ノ特別ノ事情ノアリマスル場合等ニハ其處デ賣ラナイデ内地ヘ持ツテ來テ賣ツテモ宜シイ、ト云フ規定デアルノデアリマシテ、今マデニ於テモ朝鮮米ヲ内地デ賣却シマシタヤウナ場合ハ、現行法デモ但書ガ適用サレタコトデアリマスシ、此勅令第十三條ノ規定ト云フモノハ將來ニ於テモ適用ノアル場合ガ多イダラウト思フノデアリマス、ソレカラアトハ買換ニ關スル規定、貸付ニ關スル規定ガアルノ

米穀統制
法施行令
第十四條
米穀統制
法施行令
第十五條
米穀統制
法施行令
第十六條

デアリマシテ、買換ニ關スル規定ハ勅令ノ第十四條ノ規定ニナツテ居リマスシ、ソレカラ貸付ニ關スル規定ハ第十五條ト第十六條、第十七條ノ規定ニナツテ居リ、施行規則デハ第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十三條ノ規定ニナツテ居リマス、是ハ現行ノ規定ト同様ニナツテ居リマス。

米穀統制
法施行令
第十八條
米穀統制
法施行令
第十九條

ソレカラ輸出入ノ許可ニ關スル規定ハ勅令ノ第十八條及第十九條ノ規定ニナツテ居ルノデアリマシテ、此手續ガ施行規則ノ第三十四條、第三十五條、第三十六條、第三十七條、第三十八條ノ規定ニナツテ居リマス、是モ從來通りノ規定ニナツテ居リマスカラ、別ニ申上ゲルコトハ此規定トシテハナイノデアリマスガ、今度ハ暹羅米ノ輸入ガ主デアリマスガ、總テ他ノ國ニ對シテモ同様デアリマスガ、米穀ノ需給狀況ガ非常ニ「バランス」ヲ失シテ、供給過剩ニナツテ價格ガドウモ割安ニナツテ居ルト云フヤウナコトガ現在ノ狀況デアル、此事ガ農村ノ不安ヲ惹起スト云フコトニナリマスカラ、通商航海條約ニ別段ノ定メアルトキトシテ是マデ輸入許可ヲ受ケシメナカツタモノモ公安等ノ理由ニ依ツテ輸入許可ヲ受ケシメルコトガ出來ルノデアリマスシ、我々トシテハ供給狀況ガ非常ニ多イノデアリマスカラ、之ヲ總テ許可制度ノ下ニ調節シヤウト云フ意味合カラ先達テ勅令ガ制定セラレマシテ、米穀ノ輸入ハ當分ノ内總テ米穀法第三條ノ規定ニ依ル許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ、トシテ、其規定ハ十月ノ二十日カラ施行スルト云フコトニセラレタノデアリマシテ、大體十月二十日以後ハ許可ハシナイコトニナツテ居ル、唯此勅令ヲ公布シタ日以前ニ向フデ積込ヲシテ持ツテ來ルモノハ許可ヲシヤウト云フ方針ニナツテ居リマス、其勅令ハ米穀法第三條ガ援用

シテアリマスノデ、今度ハソレヲ米穀統制法ガ施行サレルト改正シナケレバイケマセヌノデ、米穀統制法施行令ノ附則ノ後ノ方ニ、米穀ノ輸入ハ當分ノ内總テ米穀統制法第七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ、昭和八年勅令第二百七十一號ハ之ヲ廢止ス、ト云フコトニ規定セラレタノデアリマス、當分ノ間輸入米ハ全部許可ヲ要スルト云フコトニナツタ點ガ從前ト違ツテ居リマス、ソレカラ米穀統制法ガ制定サレタニ付テハ、先程申上ゲタ米穀統制法ノ第十條ノ規定カラ調査ヲ爲スベキ項目ガ澤山ニ列舉サレアルノデアリマシテ、詰リ從來ハ米穀生産費及家計費ノ調査ト云フコトガ米穀法施行令ノ第十一條ニアツタノデアリマスガ、其範圍ヲ擴張シテ、米穀其ノ他ノ穀物ノ生産高、現在高、移動及價格ノ調査ノ爲ニ道府縣、市町村及市町村長ニ對シ調査上必要ナル事務ヲ行フベキコトヲ命ジ、竝ニ適當ト認ムル者ニ對シ記帳及報告ヲ命ズルコトヲ得、ト云フ規定ニ改メタ點ガ變ツテ居リマス、其規定カラシテ米穀統制法施行規則第三十九條以下ニ現在高調査、ソレカラ第四十二條以下ニナリマスガ米穀ノ移動調査、ソレカラ第四十六條以下ニ米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ニ關スル規定ガ第五十一條マデ規定シテアリマス、ソレカラ價格ノ調査ニ關シマシテハ現在ノ施行令ノ第十三條ニアリマスルト同ジヤウナコトガ勅令ノ米穀統制法施行令ノ第二十一條ニ規定シテアルノデアリマシテ、其第二十一條ノ命令ハ米穀統制法施行規則ノ第五十二條ニ規定シテアルノデアリマス、詰リ勅令第二十一條ノ規定ハ、農林大臣ノ指定シタル市場ノ開設者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ市場ニ於テ毎日取引セラレタル米穀ノ相場及數量ヲ農林大臣ニ報告スベシ、ト云フコトニナツテ居リマシテ、施行規則ノ第五十二條デハ農林大臣ノ指定シ

タル市場ノ開設者ハ毎日其ノ市場ニ於テ取引セラレタル米穀ニシテ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ニ該當スルモノノ各銘柄及等級別ノ取引總金額及取引總數量ヲ農林大臣ニ報告スベシ、ト云フコトニナツテ居リマス、尙ホ此第五十二條ノ命令ニ付テハ第五十六條ニ罰則ガアリマシテ、是ハ第五十二條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ者故意ニ報告ヲ爲サズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス、前項ノ者ヲシテ報告ヲ爲スコトヲ得ザラシメ又ハ不實ノ報告ヲ爲サシメタル者ノ罰亦前項ニ同ジ、ト云フコトニナツテ居リマス、ソレカラ第二十二條ニ、日本銀行ハ卸賣物價ニ關スル調査ノ結果ヲ毎月農林大臣ニ報告スベシ、トナツテ居ルコトハ、從來ノ通りデアリマス以前ニハ米穀法ノ施行規則ノ第二十五條ノ末項ニ書イテアリマシタ米穀年度ト云フモノノ規定ヲ、勅令ノ方ニ移サレマシテ米穀統制法施行令ノ第二十三條ニ、本令中米穀年度ト稱スルハ前年ノ十一月一日カラ其ノ年ノ十月三十一日マデトスルト云フ規定ガ設ケラレアルノデアリマス、是ガ本文ノ方ノ大體ノ御説明デゴザイマスガ、尙ホ附則ト致シマシテ此統制法施行令ハ米穀統制法ノ施行ノ日ヨリ施行ス、米穀法施行令ハ之ヲ廢止スルト云フコトニ致サレ、尙ホ今年ハ十一月一日カラ米穀ノ統制法ヲ施行シテ參リマスル關係上最低價格及最高價格ハ十二月ニ定メルト云フ本文ノ例外ヲ經過的ニ設ケル必要ガアリマスノデ、附則ノ第三項ニ米穀統制法第二條ノ最低價格及最高價格ハ昭和八年ニ限ツテ十一月及十二月ニ之ヲ定ム、ト云フコトニサレテ、十一月カラ十二月マデノ間一箇月餘リノ公定價格ヲ定メルコトニ致サレタノデアリマス、サウシテ其十一月ニ公定價格ヲ定メマス際ニハマダ昭和八年産米穀ニ對スル生産費ノ調ガアリマセヌノデ、十一月ニ定メル最低價格ノ決定ニ付テ參酌

スベキ米穀生産費ハ十一月ニ公定スル公定價格ニ付テハ、米穀法施行令第五條ノ規定ニ依ツテ算出シマシタ昭和七年産米穀生産費ニ依ルコトニスル、十二月ニ公定スルモノニ付テハ昭和八年産ノ米穀ノ生産費ニ依ルト云フコトヲ規定致サレマシタ、又昭和八年産米穀ノ生産費ハ此米穀統制法施行令ノ施行前ニ米穀法施行令ニ依ツテ調査シタモノガ大部分ニナツテ居リマスガ、是ハ規定ノ内容ガ殆ド同一ノモノヲ採用シタノデアリマスカラ、此統制法施行令ニ依ツテ調査シタモノト看做スト云フコトニ致サレタノデアリマス、ソレカラ最高價格ノ決定ニ付テデアリマスガ、米穀統制法第二條ノ規定ニ依リマスル最高價格ハ、家計費ヨリ算出シタル所謂家計米價ト云フモノト、物價其ノ他ノ經濟事情、即チ物價參酌値ト云フモノノ關係カラ算出シタモノヲ使フ譯ニナツテ居ルノデアリマスガ、家計米價ノ調査ガマダ一回シカ致シタコトガナイノデアリマシテ、果シテ是等ニ用ヒル妥當ナルモノガ出ルカドウカト云フコトが見極メガ付イテ居リマセスカラ、經過的ノ規定ト致シマシテ、當分ノ内米穀統制法施行令ノ第三條ノ規定ニ拘ラズ、米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル物價參酌値ノ上値二割ニ相當スル價格ト上値三割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトガ出來ル、ト致サレタノデアリマシテ、家計米價ノ方ハ當分ノ内使ハナイデ宜シイト云フコトニ規定セラレタノデアリマス。

大體只今マデ申上ゲマシタコトガ今度ノ米穀統制法施行令竝ニ施行規則ノ内容ノ大要ニナリマスガ、之ニ伴ヒマシテ施行期日ヲ勅令ヲ以テ、米穀統制法ヲ昭和八年十一月一日カラ施行スルト云フコトニ定メラレ、又米穀法ノ規定ニ依ツテ引上ゲテ居リマシタ米及粳竝ニ粟ノ輸入税ニ付キマシテ規定ヲ設ケマシテ、米穀統制法第九條ノ規定ニ依ツテ米及粳ノ輸入税ハ昭和八年ノ十二月三十一日マデ毎百斤二圓トシ、粟ノ輸入税ハ昭和九年三月三十一日マデ毎百斤一圓トスルト云フコトニシテ此ノ勅令ハ米穀統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス、昭和五年勅令第二百六號及昭和八年勅令第九十八號ハ廢止スルト云フコトニ致サレタノデアリマス、ソレカラ米穀委員會ノ官制ト云フモノガ廢止セラレマシテ、新ニ米穀統制委員會ト云フモノガ設ケラレルコトニナリ、又米穀統制法第七條乃至第九條、即チ米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ、ト云フ規定ト、政府ハ米穀ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ粟、高粱又ハ黍ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得ルト云フ規定、及政府ハ米穀ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀、粟、高粱又ハ黍ノ輸入税ヲ増減又ハ免除スルコトガ出來ルト云フ規定、竝ニ第十二條、即チ、其違反者ニ對スル罰則ト云フコト及附則ノ第三項及第四項、詰リ許可ノ經過規定、ソレカラ罰則ノ經過規定デアリマスガ、之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルト云フコトニナツタノデアリマス。

大體只今マデ申上ゲマシタコトガ今度ノ米穀統制法施行令其他ニ關スル規定ノ概要デアリマス。

(終リ)

參照

一 米穀統制法

(昭和八年三月二十九日法律第二十四號)

第一條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節シ米穀ノ統制ヲ圖ル爲本法ニ依リ米穀ノ買入及賣渡ヲ行フ

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年米穀ノ最低價格及最高價格ヲ公定シ之ヲ告示ス

前項ノ最低價格及最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ米穀生産費、家計費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ定メタル最低價格又ハ最高價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物價ノ變動著シキ場合又ハ米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テハ之ヲ改定スルコトヲ得

第三條 政府ハ前條ノ最低價格又ハ最高價格ヲ維持スル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ最低價格ニ依ル賣渡ノ申込又ハ最高價格ニ依ル買入ノ申込ニ應ジテ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス

第四條 政府ハ道府縣ヨリ該地域外ニ又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ内地ニ移出スル米穀ノ數量ヲ月別平均的ナラシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ出廻期ニ於テ米穀ノ買入ヲ爲シ出廻期後ニ於テ米穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要ニ應ジ所有米穀ノ貯藏、買換、交換、加工及整理ノ爲ニスル賣渡竝ニ輸入ヲ目的トスル米穀ノ買入及輸出ヲ目的トスル米穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第六條 政府ハ米穀ノ買換ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ買換ニ代ヘ買換ノ爲賣渡ヲ爲サントスル米穀ヲ道府縣ニ對シ貸付スルコトヲ得

第七條 米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條 政府ハ米穀ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ粟、高粱又ハ黍ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第九條 政府ハ米穀ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀、粟、高粱又ハ黍ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得

第十條 米穀生産費、家計費竝ニ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産高、現在高、移動及價格ノ調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 政府ハ前條ニ規定スル事項其ノ他米穀ノ統制ニ關シ必要ナル事項ヲ調査スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏又ハ吏員ハ其ノ身分ヲ證明スル證票ヲ携帯スベシ

第十二條 第七條ノ規定ニ違反シテ米穀ヲ輸入若ハ輸出シ又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ粟、高粱若ハ黍ヲ輸入シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀、粟、高粱又ハ黍ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス

營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ前項ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第七條ノ規定又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第七條ノ規定又ハ第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

第十三條 第十一條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨ゲタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

米穀法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前米穀法第三條ノ規定ニ依リ爲シタル許可ハ本法第七條ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタルモノト

看做ス

本法施行前ニ米穀法ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ仍其ノ罰則ヲ適用ス

二 米穀統制法施行令

(昭和八年十月二十三日勅令第二百八十號)

第一條 米穀統制法第二條ノ最低價格及最高價格ハ毎年十二月東京市及大阪市ニ於ケル價格ニ付之ヲ公定ス

前項ノ最低價格及最高價格ハ當該年産ノ内地米ニシテ農林大臣ノ告示スル銘柄及等級ノモノニ付之ヲ定ム

第二條 最低價格ハ農林大臣ノ定ムル標準最低價格ヲ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ノ總平均タラシムル計算ノ下ニ命令ノ定ムル所ニ依リ格差ニ從ヒ各銘柄及等級ノ米穀毎ニ之ヲ定ム

前項ノ標準最低價格ハ當該年産米穀ノ生産費ニ運賃諸掛ヲ加ヘタル額ト米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル價格トノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ農林大臣ノ定ムル價格ハ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ下値一割ニ相當スル價格ト下値二割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第三條 最高價格ハ農林大臣ノ定ムル標準最高價格ト前條ノ標準最低價格トノ差額ヲ前條ノ規定ニ

依リ定メタル各銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ニ加ヘ之ヲ定ム

前項ノ標準最高價格ハ當該年ニ調査シタル家計費ヲ基礎トシテ算出シタル價格(家計米價)ト米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ニ基キ農林大臣ノ定ムル價格トノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ農林大臣ノ定ムル價格ハ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ上値二割ニ相當スル價格ト上値三割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第四條 米穀統制法第二條ノ米穀生産費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年調査シタル各農家ノ玄米一石當生産費(例外ト認ムルモノヲ除ク)ヲ平均シテ之ヲ算出ス

前項ノ玄米一石當生産費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル費用ノ合計額ヨリ副收入ノ金額ヲ控除シタルモノヲ米穀收量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

- 一 種 籾 代
- 二 肥 料 代
- 三 勞 賃
- 四 畜 力 費
- 五 諸 材 料 費
- 六 農 舍 費
- 七 農 具 費

- 八 租税其他ノ公課
- 九 部落協議費又ハ之ニ準ズルモノ（水利費又ハ病蟲害驅除豫防費タルモノ）
- 十 土地資本利子
- 十一 小 作 料
- 十二 米穀検査手数料

前項各號ニ掲グル事項、副収入及米穀收量ノ調査方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第二條第二項ノ運賃諸掛ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル費用ノ合計額ヲ平均シ之ヲ算出ス

- 一 農林大臣ノ指定スル地方主要米穀集散地ニ於テ要スル小運送費及積込賃
- 二 前號ノ地方主要集散地ヨリ第一條ノ地迄ノ鐵道又ハ船舶ノ運賃
- 三 第一條ノ地ニ於テ要スル積卸賃及小運送費

第六條 第三條第二項ノ家計米價ハ命令ノ定ムル所ニ依リ白米一石當價格ヲ玄米一石當價格ニ換算シテ之ヲ定ム

前項ノ白米一石當價格ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ毎年調査シタル各世帯ノ家計費（例外ト認ムルモノヲ除ク）ニ依リ算定スル平均家計費中ノ米代ト平均家計費中ノ副食物費、嗜好品費、交際費、修養娛樂費、旅行費及貯金額ノ合計額ニ別ニ告示スル割合ヲ乗ジタル額トノ合計額ヲ平均一世帯當白米消費量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

第七條 米穀統制法第二條第三項ノ規定ニ依ル最低價格又ハ最高價格ノ改定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條又ハ第三條ノ規定ニ準ジテ之ヲ行フ

米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スルハ九月一日以後ニ限ル

第八條 米穀統制法第三條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ニ於テ東京市及大阪市以外ノ地ヲ其ノ受渡地ニ指定シタルトキハ其ノ地ヨリ東京市又ハ大阪市ニ至ル迄ノ運賃諸掛ノ範圍内ニ於テ農林大臣ノ定ムル金額ヲ參酌シテ買入又ハ賣渡ノ代金ヲ定ムルコトヲ得

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ政府ハ米穀統制法第三條ノ規定ニ依ル賣渡又ハ買入ノ申込ニ應ゼザルコトヲ得

- 一 申込數量ガ命令ノ定ムル數量ニ達セザルトキ
- 二 買占其ノ他不當ノ利得ヲ圖ル目的ヲ以テ申込ヲ爲シタルモノト認メタルトキ

第十條 最高價格ニ依ル買入ノ申込アリタル場合ニ於テ買入ノ申込アリタル銘柄及等級ノ米穀ヲ所有セザルトキハ政府ハ買入申込者ニ於テ申込ノ際反對ノ意思ヲ表示シタル場合ヲ除クノ外他ノ銘柄及等級ノ米穀ヲ賣渡スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第三條ノ規定ニ依ル最高價格ノ定ナキ銘柄及等級ノ米穀ヲ賣渡ス場合ニ於テハ其ノ價格ハ農林大臣之ヲ定メ公示ス

第十一條 米穀統制法第四條ノ規定ニ依ル内地米ノ買入數量ハ當該米穀年度ニ於ケル年推算移出數

量ヲ月平均シタルモノノ四月分ヲ當該米穀年度ニ於ケル十一月ヨリ二月ニ至ル各月推算移出數量ノ合計額ヨリ控除シタル數量ヲ限度トス

前項ノ年推算移出數量ハ命令ヲ以テ定ムル各道府縣別ノ第二回米穀豫想收穫高ニ當該道府縣ノ米穀生産高ニ對スル當該道府縣産米ノ地域外移出數量ノ割合ヲ前五年ニ付平均シタルモノヲ乘ジ算出シタルモノノ合計額トス

第一項ノ各月推算移出數量ハ各月ニ於ケル各道府縣産米ノ地域外移出數量ノ年移出數量ニ對スル割合ヲ前五年ニ付平均シタルモノヲ當該道府縣ノ年推算移出數量ニ乘ジタルモノノ合計額トス
米穀統制法第四條ノ規定ニ依ル朝鮮米又ハ臺灣米ノ買入數量ノ限度ハ前三項ノ規定ニ準ジテ算出シタル數量ヲ限度トス

第十二條 米穀統制法第四條ノ規定ニ依リ買入レタル米穀ノ數量ニ相當スル米穀ハ當該米穀年度内ニ於テ賣渡ヲ爲スモノトス但シ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ニ該當スル米穀ヲ農林大臣ノ指定スル市場ニ於ケル平均價格ガ標準最低價格ノ上値五分ニ相當スル價格以下ニ在ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ平均價格ハ前項ノ市場ニ於テ毎日取引セラレタルモノノ一石當平均取引價格ノ總和ヲ平均シテ之ヲ定ム

前項ノ一石當平均取引價格ハ各銘柄及等級別ニ其ノ取引總金額ヲ取引總數量ヲ以テ除シテ之ヲ算出ス

第十三條 米穀統制法第四條ノ規定ニ依ル朝鮮米及臺灣米ノ買入又ハ賣渡ハ朝鮮米ニ在リテハ朝鮮

ニ於テ、臺灣米ニ在リテハ臺灣ニ於テ之ヲ行フ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 米穀ノ買換ヲ行フ場合ニ於ケル賣渡及買入ハ同時期ニ於テ之ヲ行フ但シ八月ヨリ十月迄ノ間ニ於テ賣渡ヲ行ヒ新米ノ出廻期ニ於テ買入ヲ行フ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 米穀統制法第六條ノ規定ニ依ル米穀ノ貸付ハ道府縣ニ於テ米穀ヲ市町村、産業組合、農會等ニ對シ農林大臣ノ適當ト認ムル條件ヲ以テ貸付又ハ賣渡ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ行フ

第十六條 米穀統制法第六條ノ規定ニ依リ米穀ノ貸付ヲ受ケタル道府縣ハ貸付ヲ受ケタル米穀ト同一數量ノ米穀ヲ貸付ヲ受ケタル日ヨリ一年以内ニ於テ農林大臣ノ指定スル時期ニ返還スルコトヲ

要ス

前項ノ規定ニ依リ返還スベキ米穀ハ農林大臣ノ指定スル所ニ從ヒ返還スベキ時期ノ屬スル年當該年産又ハ其ノ前年産ノ米穀ニシテ貸付ヲ受ケタル米穀ト同一ノ銘柄及等級ノモノ又ハ之ト同格ノモノタルコトヲ要ス

第十七條 貸付又ハ返還ノ爲ニスル米穀ノ受渡ハ農林大臣ノ指定スル倉庫ニ於テ之ヲ行フ

第十八條 米穀統制法第七條ノ規定ニ依ル米穀ノ輸入又ハ輸出ノ許可ハ内地ニ於テハ農林大臣、朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ

朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ハ豫メ農林大臣ト議シ毎年許可ニ依リ輸入セラルベキ米穀ノ數量ヲ定ム其ノ數量ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ米穀統制法第七條ノ規定ニ依ル許可ハ之ヲ受クルコトヲ要セズ

一 通商航海條約ニ別段ノ定アルトキ
二 政府ガ米穀統制法ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ委託ヲ受ケ米穀ヲ輸入又ハ輸出スルトキ

三 船用品又ハ旅客ノ携帶品タル米穀、標本米其ノ他之ニ準ズベキ米穀ヲ輸入又ハ輸出スルトキ
前項第三號ニ規定スル米穀ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 主務大臣ハ米穀生産費、家計費並ニ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産高、現在高、移動及價格ノ調査ノ爲道府縣、市町村及市町村長ニ對シ調査上必要ナル事務ヲ行フベキコトヲ命ジ並ニ適當ト認ムル者ニ對シ記帳及報告ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 農林大臣ノ指定シタル市場ノ開設者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ市場ニ於テ毎日取引セラレタル米穀ノ相場及數量ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第二十二條 日本銀行ハ卸賣物價ニ關スル調査ノ結果ヲ毎月農林大臣ニ報告スベシ
第二十三條 本令中米穀年度ト稱スルハ前年ノ十一月一日ヨリ其ノ年ノ十月三十一日迄トス

附則

本令ハ米穀統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
米穀法施行令ハ之ヲ廢止ス

米穀統制法第二條ノ最低價格及最高價格ハ昭和八年ニ限リ十一月及十二月ニ之ヲ公定ス

前項ノ最低價格ノ決定ニ付參酌スベキ米穀生産費ハ十一月ニ公定スルモノニ付テハ米穀法施行令第五條ノ規定ニ依リ算出シタル昭和七年産米穀ノ生産費、十二月ニ公定スルモノニ付テハ昭和八年産米穀ノ生産費トス

昭和八年産米穀ノ生産費ニ付本令施行前米穀法施行令ニ依リ調査シタルモノハ本令ニ依リ之ヲ調査シタルモノト看做ス

米穀統制法第二條ノ最高價格ハ當分ノ内第三條ノ規定ニ拘ラズ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出シタル價格ノ上値二割ニ相當スル價格ト上値三割ニ相當スル價格トノ範圍内ニ於テ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

米穀ノ輸入ハ當分ノ内總テ米穀統制法第七條ノ規定ニ依ル許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

昭和八年勅令第二百七十一號ハ之ヲ廢止ス

三 米穀統制法施行規則

(昭和八年十月二十四日 農林省令第二十號)

第一條 米穀生産費ノ調査ハ水稻ニ付之ヲ行フ

第二條 米穀生産費ノ調査ハ各道府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ於ケル左ニ掲グル要件ヲ具備スル自作農又ハ小作農ニシテ毎年地方長官ノ推薦ニ基キ農林大臣ニ於テ選定シタルモノニ付之ヲ行フ

- 一 主要米産地ニ於テ其ノ地方ニ普及セル品種ノ水稻作ヲ主業トスルコト
- 二 段當收量中位ナルコト
- 三 經營ノ規模中位ナルコト
- 四 中庸ナル生産費ヲ得ルニ不適當ナル事情ナキコト

第三條 米穀統制法施行令第四條第二項第一號ノ種籾代ハ選種當時ニ於ケル種籾原料ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ算定ス但シ購入シタル種籾原料ニ付テハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依ル

第四條 米穀統制法施行令第四條第二項第二號ノ肥料代ハ購入シタル肥料ニ付テハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依リ、購入セザル肥料ニ付テハ市價アルモノハ施肥當時ニ於ケル市價ニ依リ、市價ナキモノハ別ニ定ムル肥料成分ノ價格ニ依リ之ヲ算定ス

第五條 米穀統制法施行令第四條第三號ノ勞賃ハ日雇勞働及季節雇勞働ニ付テハ賃銀及實物給與ノ評價額ノ合計金額ニ依リ、自家勞働及之ニ準ズル勞働竝ニ年雇勞働ニ付テハ作業當時ニ於ケル當該地方ノ通常ノ日雇勞賃ニ依リ之ヲ算定ス

第六條 米穀統制法施行令第四條第四號ノ畜力費ハ使役當時ニ於ケル當該地方ノ同種類ノ家畜ノ通常ノ賃借料ニ依リ之ヲ算定ス但シ賃借シタル家畜ニ付テハ其ノ賃借料（實物給與ノ評價額ヲ含ム）ニ依ル

第七條 米穀統制法施行令第四條第二項第五號ノ諸材料費ハ左ニ掲グル材料ニ付購入シタルモノニ在リテハ其ノ購入代金其ノ他購入ニ要シタル費用ニ依リ、購入セザルモノニ在リテハ市價アルモノハ市價ニ依リ、市價ナキモノハ其ノ評價額（原料費、勞賃等ニ依リ評價ス）ニヨリ之ヲ算定ス

- 一 選種用材料
- 二 病蟲害驅除豫防用材料
- 三 器具機械用材料
- 四 包装用材料
- 五 前各號ニ準ズル用途ニ使用セラレタル材料

第八條 米穀統制法施行令第四條第六號ノ農舍費ハ農舍（住宅、納屋、作業場、肥料舍、倉庫其ノ他ノ工作物ヲ謂フ以下同ジ）ニ付テハ其ノ減價額及修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依リ、農舍敷地、乾場其ノ他農舍ノ附屬地ヲ含ム以下同ジ）ニ付テハ其ノ地代（類地ノ賃借料ニ依リ評價ス）ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依リ之ヲ算定ス但シ賃借シタル農舍又ハ農舍敷地ニ付テハ其ノ賃借料ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依ル

前項ノ減價額ハ各農舍ニ付當該年ニ於テ行ヒタル評價額ヲ維持見込年數ヲ以テ除シタルモノトシ前項ノ修繕費ハ通常ノ年當修繕費トス

第九條 米穀統制法施行令第四條第二項第七號ノ農具費ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ算定ス

- 一 農林大臣ノ指定スル農具（甲農具）ニ付テハ其ノ減價額及修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合

ヲ乗ジタルモノニ依ル但シ賃借シタルモノニ付テハ其ノ賃借料ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノトス

二 前號以外ノ農具（乙農具）ニ付テハ當該年ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ其ノ新調ニ要スル費用及當該年ニ於ケル修繕費ノ合計金額ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依リ、當該年前ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ當該年ニ於ケル修繕費ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノニ依ル

前項第一號ノ減價額ハ當該年ニ於テ新調シタル農具ニ在リテハ其ノ新調ニ要スル費用ヲ其ノ農具ノ維持見込年數ヲ以テ、當該年前ニ於テ新調シタルモノニ在リテハ當該年ニ於テ其ノ新調ニ要スル費用見込金額ヲ新調農具ノ維持見込年數ヲ以テ除シタルモノトシ同項同號ノ修繕費ハ通常ノ年當修繕費トス

第一項ノ米作負擔割合ハ各農具ノ米ノ生産ニ供セラレタル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十條 米穀統制法施行令第四條第二項第八號ノ租稅其ノ他ノ公課ハ當該年ニ於テ徵收セラル、左

ニ掲グル租稅其ノ他ノ公課ノ金額ニ米作負擔割合ヲ乗ジテ之ヲ算定ス

一 田租及其ノ附加稅並ニ田ニ對スル段別割、特別地稅及其ノ附加稅

二 家屋稅及其ノ附加稅

三 雜種稅

四 戶數割

五 水利組合費

六 農會費

前項ノ米作負擔割合ハ前項第一號ノ租稅及第六號ノ農會費中地租割又ハ段別割ニ依リ賦課セラルルモノニ在リテハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ、同項第二號、第三號及第五號ノ租稅其ノ他ノ公課ニ在リテハ家屋其ノ他ノ課稅物件（水利組合費ニ在リテハ組合費賦課ノ標準ト爲リタル物件）ガ米ノ生産ニ供セラレタル割合ニ依リ、同項第六號ノ農會費中會員割ニ依リ賦課セラルルモノニ在リテハ米作粗收入ノ農業經營ニ基ク粗收入ニ對スル割合ニ依リ、同項第四號ノ戶數割ニ在リテハ米作粗收入ノ總粗收入ニ對スル割合及田地資産ノ總資産ニ對スル割合ヲ當該市町村ニ於ケル戶數割ノ納稅義務者ノ所得額ニ依ル賦課金額ト資産ノ狀況ニ依ル賦課金額トノ割合ニ依リ加重シテ平均シタル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 米穀統制法施行令第四條第二項第九號ノ部落協議費又ハ之ニ準ズルモノハ部落協議費又ハ農事實行組合農家小組合其ノ他ノ組合ノ組合費トシテ賦課セラルル米作ノ爲ノ水利費又ハ病蟲害驅除豫防費タル金額トス

第十二條 米穀統制法施行令第四條第二項第十號ノ土地資本利子ハ類地ノ通常小作料ノ評價額ニ米作負擔割合ヲ乗ジタルモノヨリ第十條ノ規定ニ依リ算定セラルル租稅其ノ他ノ公課（同條第一項第二號乃至第四號ノ租稅並ニ第六號ノ農會費中會員割ニ依リ賦課セラルルモノヲ除ク）ノ金額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

前項ノ米作負擔割合ハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ之ヲ定ム

第一項ノ通常小作料ノ評價ハ當該地方ニ於ケル米穀ノ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ行フ

第十三條 米穀統制法施行令第四條第二項第十一號ノ小作料ハ實納小作料ノ評價額(納入費ヲ含ム)ヨリ獎勵金額又ハ獎勵米ノ評價額ヲ控除シタルモノニ米作負擔割合ヲ乘ジテ之ヲ算定ス

前項ノ實納小作料及獎勵米ノ評價ハ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ行フ
第一項ノ米作負擔割合ハ米作粗收入ノ米作及裏作粗收入ニ對スル割合ニ依リ之ヲ定ム

第十四條 米穀統制法施行令第四條第二項第十二號ノ米穀検査手数料ハ調査農家ノ生産シタル米穀ニ付道府縣ノ行フ生産及移出ニ關スル検査ヲ受クル場合ニ於テ徴收セラルル一石當検査手数料ニ米穀收量ヲ乘ジテ之ヲ算定ス

第十五條 米穀統制法施行令第四條第二項ノ副収入ハ收穫終了當時ノ農家ノ庭先相場ニ依リ之ヲ算定ス

第十六條 米穀統制法施行令第四條第二項ノ米穀收量ハ包装シタル玄米ノ容量ニ依リ之ヲ算定ス

第十七條 第二條ノ規定ニ依リ選定セラレタル者ハ別ニ配布スル帳簿又ハ用紙ニ依リ米穀統制法施行令第四條第二項各號ニ掲グル事項竝ニ副収入及米穀收量ニ關シ記帳ヲ爲シ地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

第十八條 第二條ノ規定ニ依リ選定セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ地方長官ノ報告ニ基キ前條ノ規定ニ依ル記帳ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

一 自作農又ハ小作農トシテ選定セラレタル者ガ自作農又ハ小作農タラザルニ至リタルトキ

二 經營面積、家族ノ勞働力其ノ他經營ノ規模ニ著シキ變動アリタルトキ

三 中庸ナル生産費ヲ得ルニ著シク不適當ナル事情ヲ生ジタルトキ

第十九條 米穀統制法施行令第一條第二項ノ當該年産ノ内地米トハ翌年十一月一日以後最低價格及最高價格ノ公定ニ至ル迄ハ次年産ノ内地米トス

第二十條 米穀統制法施行令第二條第二項及第三條第二項ノ米價指數ト物價指數トノ關係ヨリ算出スル價格(物價參酌値)ハ明治三十三年十一月一日以後各米穀年度ニ於ケル米價指數ノ物價指數ニ對スル割合(米價率)ヨリ附録ニ定ムル算式ニ依リ算出シタル當該米穀年度ノ米價率ノ趨勢値ヲ當該米穀年度ノ十一月ノ物價指數ニ乘ジタモノヲ十一月八十一錢ニ乘ジテ之ヲ算出ス但シ米穀統制法施行令第七條ノ規定ニ依リ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スル場合ニ於テ參酌スベキ物價參酌値ニ付テハ米價率ノ趨勢値ヲ乘ズベキ物價指數ハ改定ノ月ノ前月ノ物價指數トス

米穀ノ需給狀況ニ著シキ變動ヲ生ジ若クハ生ズルノ虞アル場合ニ於ケル最低價格又ハ最高價格ノ改定ニ在リテハ米價率ノ趨勢値ヲ乘ズベキ物價指數ハ前項但書ノ規定ニ拘ラズ改定前ノ最低價格又ハ最高價格ノ決定ニ付米價率ノ趨勢値ヲ乘ジタル物價指數ト爲スコトヲ得

第一項ノ米價指數及物價指數ハ日本銀行ノ行ヒタル卸賣物價ニ關スル調査ニ依リ之ヲ算定ス

第二十一條 物價ノ變動著シキ場合ニ於テ米穀統制法施行令第七條第一項ノ規定ニ依リ最低價格又ハ最高價格ヲ改定スルハ物價指數ガ最低價格又ハ最高價格ノ決定ニ付米價率ノ趨勢値ヲ乘ジタル

物價指數ニ比シ五分以上變動シタルトキニ限ル

第二十二條 米穀統制法施行令第二條第一項ノ最低價格ハ同條第二項ノ規定ニ依リ定メタル標準最低價格ヲ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ノ米穀ノ最低價格ヲ總平均シタルモノニ該當スルモノトシ指定銘柄等級中標準ト爲スベキ米穀ニ對スル他ノ指定銘柄等級ノ米穀ノ格差ニ依リ指定銘柄等級中標準ト爲スベキ米穀ノ最低價格ヲ算出シ之ニ對スル格差ニ依リ各銘柄及等級ノ米穀毎ニ之ヲ定ム

第二十三條 米穀統制法施行令第六條第一項ノ規定ニ依リ白米一石當價格ヲ玄米一石當價格ニ換算スル場合ニ於テハ其ノ換算ハ家計調査施行規則第一條ノ家計費ノ調査期間内ニ於ケル玄米價格ノ白米價格ニ對スル割合ヲ白米一石當價格ニ乘ジテ之ヲ行フ

第二十四條 米穀統制法施行令第五條ノ規定ニ依ル運賃諸掛ハ同條各號ニ掲グル費用ノ合計額ヲ道府縣ヨリ移出セラルル米穀ノ數量ニ依リ加重シテ平均シ之ヲ算出ス

第二十五條 米穀統制法第三條ノ賣渡又ハ買入ノ申込ヲ爲サントスル者ハ様式第一號ニ依ル賣渡申込書又ハ様式第二號ニ依ル買入申込書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第二十六條 農林大臣前條ノ申込ヲ受ケ買入又ハ賣渡ヲ決定シタルトキハ受渡ノ場所及期日ヲ定メ申込者ニ之ヲ通知ス

第二十七條 最低價格ニ依ル買入米穀ハ道府縣ノ移出検査又ハ之ニ準ズル検査ニ合格シタル水稻類

米ニシテ受入検査ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ受入検査ニ對シテハ賣渡人ハ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

第二十八條 最低價格ニ依ル賣渡又ハ最高價格ニ依ル買入ノ申込ハ同一銘柄百俵（呎）以上ニシテ同一ノ等級及粒種ノモノ二十俵（呎）以上タルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 道府縣米穀ノ貸付ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ農林大

臣ニ提出スベシ

- 一 貸付ヲ受ケントスル米穀ノ數量
- 二 貸付米ノ受渡及返還ノ時期
- 三 米穀ノ貸付ヲ受ケントスル理由
- 四 道府縣ヨリ米穀ノ貸付又ハ賣渡ヲ受クベキ者ノ名稱及之ニ對スル道府縣ノ貸付又ハ賣渡ノ計畫
- 五 前號ノ貸付又ハ賣渡ニ關スル規定又ハ條件
- 六 道府縣ヨリ米穀ノ貸付又ハ賣渡ヲ受ケタル者ノ其ノ米穀ノ處分ニ關スル計畫

第三十條 農林大臣前條ノ申請ヲ爲シタル道府縣ニ米穀ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ貸付米及返還米ノ種類、數量、受渡期日、受渡場所、受渡方法其ノ他必要ナル事項ヲ定メ道府縣ニ之ヲ通知ス

第三十一條 道府縣前條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル事項ニ異議ナキトキハ遲滯ナク農林大臣ニ請書ヲ提出スベシ

第三十二條 道府縣米穀ノ貸付ヲ受ケタル後第二十九條第一項第四號又ハ第五號ニ掲グル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クベシ

第三十三條 道府縣貸付ヲ受ケタル米穀ヲ貸付シ又ハ賣渡シタルトキハ其ノ結果ヲ遲滯ナク農林大臣ニ報告スベシ

第三十四條 米穀統制法第七條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

- 一 生産地
 - 二 種別數量
 - 三 用途
 - 四 輸入ノ場合ニ在リテハ積出港及輸入港、輸出ノ場合ニ在リテハ輸出港及陸揚港
 - 五 輸入又ハ輸出ノ時期
- 前項第二號ノ種別數量ハ銘柄別、年産別、粳又ハ糯ノ別、粃、玄米又ハ白米ノ別及丸粒又ハ碎米ノ別毎ニ重量ヲ記載スベシ
- 第三十五條 農林大臣必要アリト認ムルトキハ米穀輸入許可申請書ノ提出時期ヲ指定スルコトヲ得前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

自家用其ノ他特別ノ事由ニ依リ米穀ヲ輸入セントスル者ハ第一項ノ指定ニ拘ラズ隨時米穀輸入許可申請書ヲ提出スルコトヲ得

第三十六條 米穀ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者第三十四條第一項各號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキ農林大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三十七條 米穀統制法施行令第十九條第一項第一號ノ場合ニ於テ米穀ヲ輸入又ハ輸出スル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ其ノ輸入又ハ輸出ノ手續ヲ爲スベキ税關ニ提出スベシ

一 輸入ノ場合ニ在リテハ生産地、輸出ノ場合ニ在リテハ陸揚港

二 種別數量

米穀ヲ輸入スル者ノ提出スル前項ノ書面ニハ生産地又ハ輸出地ノ帝國領事館、帝國領事館ナキトキハ其ノ他ノ官廳公署又ハ商工會議所ノ證明アルコトヲ要ス

米穀ヲ輸出スル者ハ契約書其ノ他ノ書類ニ依リ第一項各號ニ掲グル事項ノ眞實ナルコトヲ證明スベシ

第一項第二號ノ種別數量ハ第三十四條第二項ノ規定ニ準ジ之ヲ記載スベシ

米穀統制法施行令第十九條第一項第二號ノ場合ニ於テ米穀ヲ輸入又ハ輸出スル者ハ其ノ輸入又ハ輸出ノ手續ヲ爲スベキ税關ニ契約書其ノ他ノ書類ヲ示シ其ノ米穀ガ政府ノ委託ニ依リ輸入又ハ輸出セラルルモノナルコトヲ證明スベシ

第三十八條 米穀統制法施行令第十九條第一項第三號ニ規定スル米穀ノ範圍左ノ如シ

一 外國貿易船ガ沿海通航船トナリ又ハ沿海通航船ガ外國貿易船ト爲リタル場合ニ於テ輸入又ハ輸出セラルル船用品タル米穀

二 帝國內ニ於テ外國貿易船ニ積込マルル船用品タル米穀

三 標本米又ハ見本米ニシテ郵便物タルモノ

四 旅客ノ携帶品タル米穀ニシテ百斤ヲ超エザルモノ

第三十九條 米穀現在高調査ハ毎年三月一日、五月一日、七月一日、八月一日、九月一日及十一月一日各午前零時現在ニ於テ内地ニ現在スル米穀ニ付之ヲ行フ但シ左ニ掲グル米穀ニ付テハ之ヲ行ハザルモノトス

一 調査期日ニ於テ保税地域及外國貿易船ニ現在スル米穀

二 内地米、朝鮮米及臺灣米ノ碎米

三 八月一日、九月一日及十一月一日現在ノ調査ニ在リテハ其ノ年八月一日ヨリ十月三十一日迄ノ間ニ生産セラレタル内地米

前項ノ調査ハ内地米、朝鮮米及臺灣米ニ在リテハ粳、玄米及白米ニ區分シ、外國米ニ在リテハ粳、玄米、白米及碎米ニ區分シテ之ヲ行フ

第四十條 左ニ掲グル倉庫ノ管理者ハ其ノ倉庫ニ現在スル米穀ニシテ前條ノ規定ニ依リ調査セラルベキモノノ數量ニ付地方長官ニ對シ様式第三號ニ依リ申告ヲ爲スベシ

一 倉庫營業者ノ倉庫

二 運送營業者、運送取扱營業者又ハ銀行ノ倉庫

三 農業倉庫又ハ聯合農業倉庫

四 前各號ノ外農會、産業組合、産業組合聯合會又ハ之ニ準ズルモノニシテ地方長官ノ指定シタルモノノ倉庫

第四十一條 第三十九條ノ規定ニ依リ調査セラルベキ米穀ニシテ左ニ掲グル場所ニ現在スルモノハ米穀現在高調査員ニ於テ之ヲ調査スベシ

一 米穀生産者又ハ耕地所有者ノ倉庫、納屋其ノ他ノ貯藏場所

二 米穀販賣業者又ハ精米業者ノ店舗、精米場又ハ倉庫其ノ他ノ貯藏場所

三 正米市場又ハ之ニ準ズル市場ノ營業所又ハ倉庫

四 社寺又ハ之ニ準ズルモノノ貯藏場所

五 品評會、共進會等ノ會場

六 鐵道若ハ軌道ノ驛又ハ地方鐵道若ハ軌道ノ貨車其ノ他ノ運搬具

七 河川港灣ニ於ケル繫船岸壁、棧橋、物揚場、上屋又ハ船舶

第四十二條 米穀移動調査ハ道府縣ヨリ該地域外ニ輸出又ハ移出セラルル米穀及該地域外ヨリ當該道府縣ニ輸入又ハ移入セラルル米穀ニ付之ヲ行フ

前項ノ調査ハ米穀ノ產地別、種類別及仕向地又ハ仕出地別ニ區分シ產地別ハ道府縣、朝鮮、臺灣及外國別ニ、種類別ハ粳、玄米、白米及碎米別（内地米ニ付テハ碎米ハ之ヲ除ク）ニ、仕向地別

又ハ仕出地別ハ道府縣、朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島及外國別ニ區分シテ之ヲ行フ

前項ノ產地別調査ニ於テ當該道府縣産米ノ移出ニ付テハ銘柄別ニ之ヲ行フ
第四十三條 地方長官ハ税關及税關支署ニ就キ輸出又ハ輸入セラレタル毎月ノ米穀數量ヲ調査スベシ

第四十四條 運送取扱營業者ハ其ノ取扱ヒタル米穀ニシテ道府縣ヨリ他ノ道府縣ニ移出シ又ハ他ノ道府縣ヨリ當該道府縣ニ移入シタルモノニ付毎月ノ數量ヲ様式第四號ニ依リ地方長官ニ申告ヲ爲スベシ直接運送ノ引受ヲ爲シタル運送營業者（船舶ニ依ル運送營業者ヲ含ム）ニ付亦同ジ内地ヨリ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ移出セラレ又ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ヨリ内地ニ移入セラルル米穀ニ付テハ移出ノ場合ニ在リテハ船積ヲ爲シタル運送取扱營業者又ハ運送營業者、移入ノ場合ニ在リテハ陸揚ヲ爲シタル運送取扱營業者又ハ運送營業者ニ於テ其ノ數量ヲ前項ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

離島又ハ特殊ノ地域ヨリ他ノ道府縣ニ移入セラレ又ハ他ノ道府縣ヨリ當該地域内ニ移入セラルル米穀ニ付テハ地方長官ハ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル運送取扱營業者又ハ運送營業者ヲシテ前項ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十五條 道府縣ヨリ當該道府縣外ニ移出セラレ又ハ當該道府縣外ヨリ當該道府縣内ニ移入セラルル米穀ニシテ運送取扱營業者又ハ運送營業者ノ取扱ハザルモノハ米穀移動調査員ニ於テ之ヲ調査スベシ

第四十六條 地方長官ハ農林大臣ノ命ヲ受ケ道府縣内ノ米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第四十七條 農林大臣米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ノ爲必要アリト認ムル場合ニ於テハ道府縣ノ區域ニ米穀生産費調査員、米穀現在高調査指導員、米穀移動調査員及米穀移動調査指導員ヲ、市町村ノ區域ニ米穀現在高調査員ヲ置ク但シ特別ノ事由アルトキハ市町村ノ區域ニ依ラズシテ米穀現在高調査員ヲ置クコトヲ得

前項ノ調査員又ハ指導員ハ地方長官ノ推薦ニ依リ農林大臣ニ於テ之ヲ囑託ス

第四十八條 米穀生産費調査員、米穀現在高調査員及米穀移動調査員ハ地方長官ノ指揮ヲ承ケ擔當調査区域内ノ米穀生産費調査、米穀現在高調査又ハ米穀移動調査ノ事務ニ従事ス

前項ノ擔當調査區域ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ム

米穀現在高調査指導員及米穀移動調査指導員ハ地方長官ノ指揮ヲ承ケ米穀現在高調査員又ハ米穀移動調査員ノ事務ノ執行ヲ指導ス

第四十九條 米穀生産費調査員、米穀現在高調査員及米穀移動調査員ハ職務執行ノ際様式第五號、第六號又ハ第七號ニ依ル資格證明書ヲ携帯スベシ

第五十條 米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ノ事務ニ従事シタル者ハ其ノ職務執行中知得シタル個人ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スベカラズ

第五十一條 米穀統制法第十一條第二項ノ規定ニ依リ當該官吏又ハ吏員ニ於テ携帯スベキ證票ハ様

式第八號ニ依ルモノトス

第五十二條 農林大臣ノ指定シタル市場ノ開設者ハ毎日其ノ市場ニ於テ取引セラレタル米穀ニシテ農林大臣ノ指定スル銘柄及等級ニ該當スルモノノ各銘柄及等級別ノ取引總金額及取引總數量ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第五十三條 第五十條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十四條 第十七條ノ規定ニ依リ記帳及報告ヲ爲スベキ者故意ニ記帳若ハ報告ヲ爲サズ又ハ不實ノ記帳若ハ報告ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ者ヲシテ記帳若ハ報告ヲ爲スコトヲ得ザラシメ又ハ不實ノ記帳若ハ報告ヲ爲サシメタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

前二項ノ規定ハ第四十條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計若ハ威力ヲ用ヒテ米穀生産費、米穀現在高及米穀移動ノ調査ヲ妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十六條 第五十二條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ者故意ニ報告ヲ爲サズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ者ヲシテ報告ヲ爲スコトヲ得ザラシメ又ハ不實ノ報告ヲ爲サシメタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

附 則

本令ハ米穀統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

米穀法施行規則ハ之ヲ廢止ス

昭和八年十一月ニ公定スル最低價格又ハ最高價格ノ決定ニ付參酌スベキ物價參酌値ヲ算定スル場合ニ於テハ第二十條ノ規定ニ拘ラズ米價率ノ趨勢値ハ昭和八米穀年度ニ於ケル米價率ノ趨勢値トシ、物價指數ハ昭和八年九月ニ於ケル物價指數トス

本令施行前ニ米穀法施行規則ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ本令施行ノ後ト雖モ仍其ノ罰則ヲ適用ス

附 錄

$$Y = \frac{\sum x^2 \sum y - \sum x \sum xy}{n \sum x^2 - (\sum x)^2} + \frac{n \sum xy - \sum x \sum y}{n \sum x^2 - (\sum x)^2} X$$

Y ハ物價參酌値ノ算定セラルル年度(年度トハ米穀年度トス以下同ジ)ニ於ケル米價率ノ趨勢値

x ハ明治三十四年度ヲ第一年次トシ物價參酌値ノ算定セラルル年度ノ前年度ニ至ル各年度ノ年

次ヲ表ス數

y ハ明治三十四年度ヨリ物價參酌値ノ算定セラルル年度ノ前年度ニ至ル各年度ニ於ケル米價率

n ハ明治三十四年度ヨリ物價參酌値ノ算定セラルル年度ノ前年度ニ至ル各年度ノ數

X ハ明治三十四年度ヨリ物價參酌値ノ算定セラルル年度ニ至ル各年度ノ數

様式
第一號

昭和 年 月 日
住 所

氏

名 印

農林大臣

殿

米穀統制法第三條ノ賣渡致度候ニ付テハ同法、同法施行令、同法施行規則、昭和 年農林省告示第 號及賣渡心得書ノ條項承知ノ上左記ノ通及申込候也

記

合 計	年 産 銘 柄 等 級 數	量	申込當時ノ現品所在地			
			道 府 縣	市 郡	區	町 村

備 考

注 意

申込米穀ノ年産、銘柄 等級又ハ現品所在地ヲ異ニスル毎ニ別行ニ記載スルコト
受渡地ニ付特ニ希望アルトキハ備考欄ニ之ヲ記載スルコトヲ得

第 二 號

買 入 申 込 書

昭和 年 月 日

住 所

氏

名 印

農林大臣

殿

米穀統制法第三條ノ買入致度候ニ付テハ同法、同法施行令、同法施行規則、昭和 年農林省告示第 號及買入心得書ノ條項承知ノ上左記ノ通及申込候也

記

年 産 銘 柄 等 級 數	量	依(叭)	
		量	數

第 號 年 月 日 交付

農 林 省 印

官 職 氏 名

米穀統制法第十一條第一項ノ規定ニ依ル證券

縦 10 厘
横 7 厘
厚紙
色 白

第十一條 政府ハ前條ニ規定スル事項其ノ他米穀ノ統制ニ關シ必要ナル事項ヲ調査スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ米穀其ノ他ノ穀物ノ生産者、取引業者、倉庫業者、其他占有者ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ナシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏又ハ吏員ハ其ノ身分ヲ證明スル證券ヲ携帯スルシ

第十三條 第十一條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨ゲタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

四 米穀統制法第二條ノ規定ニ依ル昭和八年産内地米ノ公定價格

農林省告示第四百四號

米穀統制法第二條ノ規定ニ依リ昭和八年産内地米ノ最低價格及最高價格ヲ左ノ通公定ス

昭和八年十一月一日

農林大臣 後 藤 文 夫

第一 最低價格（水稻粳玄米一石當） 一 東京市ニ於ケル價格

銘	柄	級						附 記
		一等	二等	三等	四等	五等	六等	
北海道	旭所瀧所	二・九	二・七	二・四	二・〇	一・九	黑石米、弘前米各三〇錢上 上北、三戸各郡産米三〇錢下	
	管内川	二・七	二・五	二・三	一・九	一・八		
青森	旭所瀧所	三・六	三・三	三・〇	二・六	二・三		
	管内川	三・五	三・二	二・九	二・五	二・二		
岩手	旭所瀧所	三・八	三・五	三・二	二・八	二・五		
	管内川	三・七	三・四	三・一	二・七	二・四		

第二 最高價格 (水稻粳玄米一石當)
一 東京市ニ於ケル價格

銘	柄	等級						附記
		一等	二等	三等	四等	五等	六等	
北海道	旭川管内支	二元・七三	二元・五三	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	黑石米、弘前米各三〇錢上 上北、三戸各郡産米三〇錢下 愛國種(縦繩赤色ノモノ)七〇錢下 愛國種(縦繩青色ノモノ)二〇〇錢下 水澤米ヲ含ム
	所管管内支	二元・五三	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三		
	瀧川管内支	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
	右管内支	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	一元・三三		
	内管外支	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	一元・三三		
青森	青森	二元・四三	二元・二三	二元・一三	一元・九三	一元・七三		
岩手	岩手	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
宮城	本石	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
	仙南	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
秋田	本莊	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
	地廻	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
山形	仙北	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
	庄内山居	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
	庄内鶴岡	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
	庄内縣檢	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		
	村山	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三		

二 大阪市ニ於ケル價格

銘	柄	等級						附記
		一等	二等	三等	四等	五等	六等	
福島	磐城	二元・九三	二元・七三	二元・五三	二元・三三	二元・一三	一元・九三	早證印米ヲ除ク ①證印米ヲ除ク ②印米ヲ除ク 赤繩、青繩、紫繩ノモノ各三〇錢上 銀坊主種、石白種、新石白種、農林一號種、 初光種ニシテ色繩掛ノモノ各三〇錢上
	會津	二元・八三	二元・六三	二元・四三	二元・二三	二元・一三	一元・九三	
茨城	茨城	二元・七三	二元・五三	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	
栃木	栃木	二元・六三	二元・四三	二元・二三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	
群馬	群馬	二元・五三	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	
埼玉	埼玉	二元・五三	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	
千葉	千葉	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	一元・三三	
神奈川	神奈川	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	一元・三三	
新潟	荒川	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	一元・三三	
	新潟其他	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	一元・三三	
富山	富山	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	一元・三三	
長野	長野	二元・三三	二元・一三	一元・九三	一元・七三	一元・五三	一元・三三	

PATENTED NO. 119016
 CAT. NO. 853
 "F-M"
PAMPHLET BINDERS
 are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851 (菊倍)	30. cm.	x 22.5 cm.	x 1 cm.
852 (四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853 (菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854 (四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855 (特)	24. "	x 15. "	x 1 "

Special sizes are made to order

Library Supplies in All Kinds
F. MAMIYA & CO
 OSAKA-TOKYO-FUKUOKA

